

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	62199	奥飛騨温泉郷観光イベント 開催事業	担当課	上宝支所 基盤産業課	内線 3931
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	○ A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	6 商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	2 観光費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	1 観光振興費		D	その他事業
市長の約束	1	積極的な観光振興策を実施します ・観光まちづくりを持続可能なものとするため、飛騨地域の民間組織と行政、観光関係者をはじめ、地域住民などの関係者と幅広く連携し、広域ネットワーク化を図ります。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人を目指します。			

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上宝支所地域の住民	受益者数	3,474 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・交流人口(観光客)の増加による地域活性化		
概要	事業の実施手法(手段)	・奥飛騨温泉郷の地域特性や自然環境を活かした集客イベントを、四季を通じて実施する		
	前回の評価からの改善・改革のポイント			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
	① イベント開催回数		回	目標値	16	15	15	15	
算出根拠等	奥飛騨温泉郷観光協会調べ		達成率(%)	100	100		-		
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
	②			目標値				-	
算出根拠等			達成率(%)				-		
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額			
	歳出(千円)		(A)	18,100	16,300	13,600	13,300		
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)								
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)								
コスト指標	指標名		H21	H22	H23見込	H24計画			
	①	受益者1件当たり(円)	(A/B)	5,017	4,619	3,915	3,844		
	②	来客数一人あたりのコスト		248	238	181	177		
算出根拠等	歳出/イベント期間中の来客数								

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A (2) 結びつく	A	・2月下旬の群発地震及び東日本大震災以降、観光客の入り込みが減少しているが、「元氣な飛騨高山、安全な飛騨高山」を積極的にPRし、年間観光客数500万人を達成するためにはイベントによる集客が必要である
	B (1) 一部結びつく		
	C (0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A (2) 非常に多い、急増している	B	・奥飛騨温泉郷で計画しているイベントは、観光客のみならず市民にとっても楽しめるものである
	B (1) ある程度のニーズがある		
	C (0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A (2) 市民全体におよぶ	B	・奥飛騨温泉郷への入込客数の増加は、関連業界全体に経済的な波及効果をもたらす
	B (1) 概ね市民全体におよぶ		
	C (0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A (2) 十分に達成している (100%以上)	B	・当初計画どおりのイベントを実施し、成果指標の目標値を概ね達成している
	B (1) 概ね達成している (75%以上)		
	C (0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A (2) 有効である	B	・観光シーズンはもとより、ポストシーズンのイベント開催による集客は、入込客数の上積みにも有効である
	B (1) 概ね有効である		
	C (0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A (2) 課題はない・解消されている	B	・毎年同じタイトルのイベントであっても、マンネリ化しないよう開催場所や内容を更新している
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A (2) 課題はない・解消されている	B	・事業費削減に併せてイベント内容を見直しはしているが、イベントの回数や質を確保するためにはある程度の投資が必要である
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A (2) 適正である	B	・イベントの直接の受益者は観光客であるが、最終的には地域へ利益が還元されるため、地区住民を受益者としている
	B (1) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A (4) 適正である	B	・周辺地域への波及効果を考慮すると、おおむね適正である
	B (2) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
合計	11.0 / 20.0	100点換算	55 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	・イベント内容や実施時期等を精査し、少ない投資で最大の効果が得られるよう検討を行い実施する				

総合評価(二次評価)	維持・改善	拡大	○ 縮小	廃止の検討	完了
	・地域主体の事業とすべく、負担金の段階的な引き下げを行う必要がある。 ・特例期間終了を見据え、地域への波及効果などの分析を行いつつ、行政の関与を段階的に縮小していく必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	13,600	13,300	△300	13,300	13,300
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	13,600	13,300	△300	13,300	13,300

予算要求の概要	イベント開催負担金
要求額増減理由	平成26年度までの年次計画による
①支所	
相乗効果を生み出すための他地区との連携方法	
②本庁所管課(観光課)	
地域振興特別予算が平成26年度までの限定的制度であることから、今後、段階的に自己負担割合を増やしていき、地域で自主的に運営できるよう見直す必要がある。	
地域政策課	
合併前から実施している行事・イベントについては、今後の方向性について各事業の内容や地元負担割合等の精査を行うとともに、継続について、地域と十分協議する必要がある。 来場者とその属性、交通・景観・環境・衛生面など様々な視点から事業の効果、改善点を検証する必要がある。	

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	95199	地域スポーツ振興事業	担当課	上宝支所 地域振興課	内線	3913
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	○ A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	5 保健体育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1 体育総務費		D	その他事業	
市長の約束						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	大会に参加する児童数	受益者数	120 人
目的	どういった状態にしたいのか(意図)	地元でのジュニア大会開催により、スキー人口減少の抑止、スキーレベルの向上と地域の活性化に資する		
概要	事業の実施手法(手段)	平湯大滝山スキー大会 ・小学1年生～6年生へのスキー大会参加賞の授与 ・1位～6位までのトロフィまたは盾の授与		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	①	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		スキー大会参加者	人	目標値	120	120	120	120
算出根拠等	スキー大会出場者数	達成率(%)	100	105	-	-		
成果指標	②	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		参加者増加率	%	目標値	105	105	105	105
算出根拠等	前年比	達成率(%)	88	100	-	-		
コスト面	①	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		受益者1件当たり(円)	(A/B)	558	558	583	583	
算出根拠等	受益者 大会に参加する児童数 (B)	120	120	120	120			

コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額
	歳出(千円)	(A)	67	67	70	70
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
一般財源		67	67	70	70	

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	B	競技スポーツの普及と競技力の向上を図る(7次総目標)
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	スキーレベルの向上策のみにとどまらず、冬季観光の誘客イベントとして必要である
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	ラジオ等のメディアを介して広く周知している
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	B	参加者の数は横ばい傾向であるが、目標とする数は上回っている
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	奥飛騨温泉郷の自然に触れ、その中で競技するすばらしさを継続することにより、冬季の誘客事業として観光振興にも寄与している
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	奥飛騨温泉郷のすばらしさをより多くの人に体験してもらえようPRしていく
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	A	競技種目数が固定されているため、賞品数を減らす余地はない
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	入賞を目指して大会全体のレベル向上が図られる効果から勘案して妥当である
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	A	奥飛騨温泉郷の雪イベントの一つで、多くの人に知ってもらうことにより冬に訪れる人が増え、成果が期待大である
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		13.0 / 20.0	100点換算 → 65 / 100	

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	○	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	大会参加者減少の抑止に努め、スキーレベルの向上と地域の活性化に資するため継続する。					

総合評価(二次評価)	維持・改善	拡大	○	縮小	廃止の検討	完了
	・地域の自主的な活動とすべく、負担金の段階的な引き下げを行う必要がある。 ・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。					

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	70	70	0	70	70
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	70	70	0	70	70

予算要求の概要	スキー大会入賞者の表彰に係る経費
要求額増減理由	
①支所	スキー人口が減少する中で、参加者が横ばい傾向であるが、一層参加者が増えるようPRに努める必要がある。
②本庁所管課(スポーツ振興課)	地域スポーツ振興事業は、地域の特性に応じた各種大会の開催や地域におけるスポーツ活動の推進等に対する助成として全支所地域において地域振興特別予算に計上されている。現在、一般予算の中で地域におけるスポーツ教室の開催方法やスポーツイベントのあり方等について検討しているところであり、当面、当該事業を継続する中で、事業のあり方や一般予算との関係等を整理する必要がある。
地域政策課	
同上	

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	21899	巨樹巨木保護事業		担当課	上宝支所 基盤産業課	内線	3931
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2	総務費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	総務管理費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	18	環境政策費		D	その他事業	
市長の約束	1 積極的な観光振興策を実施します ・飛騨高山の自然環境を生かしたグリーンツーリズムに加え温泉や高山で作られた高品質の食材を使ったヘルスツーリズム、自分だけの製品をつくるクラフトツーリズムなど、地元の産業と一体となった新たな旅行スタイルを生みだします。 3 豊かな自然環境を守り、環境モデル都市をつくります ・市民生活の中に自然環境を活かした街づくりを進めます。						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	受益者数	93,312 人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	・林野庁の「森の巨人たち百選」に選定された「平湯の大ネズコ」の保全及び周辺環境の整備		
概要	事業の実施手法(手段)	・保全団体へ補助金を交付することにより、保全管理・周辺環境整備・広報活動を支援する		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
① 整備回数	算出根拠等	保全団体の事業計画及び実績報告	目標値	4	5	4	4
			実績値	8	8		
②	算出根拠等	達成率(%)	目標値	200	160		
			実績値				
① 学習会の開催	算出根拠等	保全団体の事業計画及び実績報告	目標値	3	1	1	1
			実績値	2	2		
②	算出根拠等	達成率(%)	目標値	67	200		
			実績値				

コスト面	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
① 受益者1件当たり(円)	算出根拠等	A/B	目標値	1	1	1	1
			実績値	94,235	93,822	93,312	93,300
②	算出根拠等	達成率(%)	目標値				
			実績値				

コスト内訳	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	H21	H22	H23	H24
		決算額	決算見込額	予算額	実施計画額
歳出(千円)	(A)	50	50	50	50
	(B)				
一般財源		50	50	50	50

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・自然環境保護及び観光振興の両面で目標達成に結びつく
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	・国(林野庁)の選定であるため、「平湯大ネズコ」の保全は市民のみならず国民全体の財産の保全に繋がる
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	・平湯大ネズコを題材とした自然環境教育や導入路をトレッキングコースとして利用することによる健康増進に寄与する
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	A	・保全活動及び啓蒙活動の成果が表れている
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	A	・平湯大ネズコは中部山岳国立公園特別地域内にあることから、保全団体の活動は自然保護・環境教育の実践の場として有効である
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	・国立公園内であるため、周辺整備等の手法については環境省との協議が必要である
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	A	・限られた予算の中で、保全団体の創意工夫により整備が行われている
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	A	・受益者を全市民としているが、国が選定した巨樹でもあるため、全国民が受益者となりうる
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	A	・適正であると考えられる
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		17.0 / 20.0		85 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・環境教育に対する地区内他施設・団体との連携 ・観光資源や健康増進施設としての利活用				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・様々な自然環境保全に取り組む地域団体等があるなかで、特定の団体(自然環境)に支援する考え方を整理する必要がある。 ・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	50	50	0	50	50
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	50	50	0	50	50

予算要求の概要	「平湯の大ネズコ」の保護活動に対する助成
要求額増減理由	
①支所	
②本庁所管課(地域政策課)	
地域振興特別予算措置期間終了後を見据えた方針の策定が必要がある。	
地域政策課	

財務部査定の考え方	要求どおり
市長査定の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	31399	地域老人福祉推進事業費 (老人クラブ活動費助成事業)	特別予算の 位置付け	上宝支所地域振興課		内線 3921
	31399			上宝支所地域振興課		3921
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	3 民生費		O B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1 社会福祉費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	3 老人福祉費		D	その他事業	
市長の約束	5	医療・福祉を充実させます 地域住民が互いに支えあう仕組みや、緊急時の支援を万全にするため、独居老人、要援護者等への地域福祉体制を整備します。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	60歳以上の市民で構成される単位老人クラブ及び連合組織	受益者数	9,796 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	明るい長寿社会と豊かな老後を目指す。		
概要	事業の実施手法(手段)	高齢者の生きがいと健康づくり、また高齢社会を支える上で大きな役割を担っている老人クラブに対し、福祉の向上のために助成し、老人クラブを通じて各種活動の育成、支援を行う。		
前回の評価からの改善・改革のポイント	老人クラブに加入しやすい体制の構築に向け、組織や活動の見直しを促しており、役員会等で検討中である。			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
	① 会員数	算出根拠等		人	目標値	11,474	10,500	11,100	11,600
実績値/目標値		実績値	11,474		10,405	9,796	-		
算出根拠等		人	達成率(%)	100	99	88	-		
実績値/目標値			達成率(%)	100	99	88	-		
② 単位老人クラブ数	算出根拠等		人	目標値	159	150	150	143	
	実績値/目標値			実績値	159	150	143	-	
	算出根拠等		人	達成率(%)	100	100	95	-	
	実績値/目標値			達成率(%)	100	100	95	-	
成果指標	算出根拠等		%	目標値	46.8	42.0	43.0	44.0	
	実績値/目標値			実績値	46.7	41.7	39.3	-	
	算出根拠等		%	達成率(%)	100	99	91	-	
	実績値/目標値			達成率(%)	100	99	91	-	
コスト面	算出根拠等		円	目標値	489	501	519	519	
	実績値/目標値			実績値	489	501	519	519	
	算出根拠等		円	達成率(%)	100	100	95	-	
	実績値/目標値			達成率(%)	100	100	95	-	
コスト内訳	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額			
	歳出(千円)		(A)	420	420	420	420		
	受益者負担(使用料・負担金等)								
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			171	163	280	280		
一般財源			249	257	140	140			
コスト指標	算出根拠等		円	目標値	489	501	519	519	
	実績値/目標値			実績値	489	501	519	519	
	算出根拠等		円	達成率(%)	100	100	95	-	
	実績値/目標値			達成率(%)	100	100	95	-	

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など	
	A(2)	B(1)			
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	総合計画・市長公約に位置付けられ、高齢者を中心に地域住民が互いに支えあう仕組みとして、老人クラブの活動は、地域福祉体制づくりの一つであり、有意義な政策である。	
	B(1)	一部結びつく			
	C(0)	結びつかない			
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	A	高齢者の方が健康でいきいきとした生活を送るために老人クラブ活動は重要な施策であり、老人クラブからの補助金の増額について、強い要望もある。	
	B(1)	ある程度のニーズがある			
	C(0)	少ない、減少している			
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	健康で活躍する高齢者が増加することにより、地域の活性化につながる。	
	B(1)	概ね市民全体におよぶ			
	C(0)	わずかな受益者に限定される			
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	B	近年の老人クラブ加入者の減少は、高齢者の趣味や考えの多様化したことによるものである。	
	B(1)	概ね達成している (75%以上)			
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)			
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	高齢者が主体となって健康づくりや地域交流などの自主的な運営を支援している。	
	B(1)	概ね有効である			
	C(0)	見直しが必要である			
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	役員会等により、組織や活動の見直しに取り組んでいる。	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	A	補助金の額は、会員数及び単位老人クラブ数により、算出するため。	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	A	補助金の額は、会員数及び単位老人クラブ数により、算出するため。	
	B(1)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	A	補助金の額は、会員数及び単位老人クラブ数により、算出するため。	
	B(2)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
合計			16.0 / 20.0	100点換算	80 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	<ul style="list-style-type: none"> 本補助金を有効に活用するため、老人クラブにおける活動内容の見直しを進めながら、事業継続し、活動の育成と支援を行う。 地域振興特別予算(31399事業)の老人クラブ活動費補助金の一本化を図る。 				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年度事業評価において、老人クラブ(連合長寿会)の加入率は低下していることから、長寿会に加入しやすい体制の構築を促すなどの取組みが必要であるとの指摘をしているところであるが、連合長寿会に加盟しない地区もあり、事業効果が高齢者全体に及んでいないようになってきていることから、地域としての必要性も含め、今後のあり方についても検討する必要がある。 				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	420	420	0	420	420
国庫支出金					
県支出金	280	280	0	280	280
起債					
その他					
地域振興特別予算	140	140	0	140	140

予算要求の概要	長寿会事務局設置に係る助成経費
要求額増減理由	
①支所	老人クラブ活動は支所単位ではなく、全市的に取り組む事業として一般予算に計上する必要がある。
②本庁所管課(高年介護課)	地域を基盤とした老後の社会活動の円滑な展開とまちづくりへの高齢者の参画を支援し、老人クラブの活動をより一層充実した取組みにするため、一般予算(31336事業 老人クラブ活動費補助金)へ移行する必要がある。
地域政策課	
	支所地域の老人クラブへの補助は人件費を補助対象としているため、早急に高山地域と同条件となるよう調整し、一般予算化の検討が必要がある。

財務部査定の考え方	要求どおり
市長査定の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	53199	大規模林道環境保全事業	担当課	上宝支所 基盤産業課	内線	3931
予算	会計	1 一般会計	特別予算の位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	5 農林水産業費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	3 林業費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1 林業総務費		D	その他事業	
市長の約束	1 積極的な観光振興策を実施します ・観光まちづくりを持続可能なものとするため、飛騨地域の民間組織と行政、観光関係者をはじめ、地域住民などの関係者と幅広く連携し、広域ネットワーク化を図ります。 3 産業の柱としての農業・林業・畜産を確立します ・特用林産物の振興、森林技術者の確保・育成など、総合的な林業振興策に積極的に取り組みます。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上宝地域の住民	受益者数	3,474 人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	・上宝支所地域、特に双六地区の活性化と観光客の誘致		
概要	事業の実施手法(手段)	・4月中旬に山吹集落～飛騨市境までの5kmを除雪 ・7月下旬に山吹集落～飛騨市境までの5kmの周景整備(草刈り)		
概要	前回の評価からの改善・改革のポイント			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績				
			H21	H22	H23見込	H24計画	
① 除雪・草刈延長	目標値	km	5	5	5	5	
	実績値		3.7	3.7	4.7		
	算出根拠等	目標値/実績値	達成率(%)	135	135	106	-
	算出根拠等		達成率(%)				
②	目標値						
	実績値					-	
	算出根拠等		達成率(%)				
	算出根拠等		達成率(%)				
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 観光客の延入込客数	千人	目標値	1,500	1,500	1,300	1,500
			実績値	1,292	1,262		-
	算出根拠等		達成率(%)	86	84		-
算出根拠等		達成率(%)					
コスト面	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 受益者1件当たり(円)	(A/B)	目標値	93	92	288	241
			実績値	3,608	3,529	3,474	3,460
	算出根拠等		達成率(%)				
算出根拠等		達成率(%)					
コスト内訳	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額	
	歳出(千円)	(A)	336	325	1,000	835	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
コスト面	一般財源		336	325	1,000	835	
	指標名	単位	H21	H22	H23見込	H24計画	
	① 受益者1件当たり(円)	(A/B)	目標値	93	92	288	241
			実績値	3,608	3,529	3,474	3,460
算出根拠等		達成率(%)					

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A (2) 結びつく	A	・当該道路は飛騨市神岡町山之村地区へ通ずる道路であるため、生活や観光の広域ネットワーク化には欠かせない重要な路線である
	B (1) 一部結びつく		
	C (0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A (2) 非常に多い、急増している	B	・地区住民には生活道路及び森林作業路として、他地区住民には清流双六川への導入路として必要な路線である
	B (1) ある程度のニーズがある		
	C (0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A (2) 市民全体におよぶ	B	・林道ではあるが、不特定多数の住民が通行できる2車線の舗装路であり、効果は広く市民に及ぶ
	B (1) 概ね市民全体におよぶ		
	C (0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A (2) 十分に達成している (100%以上)	B	・積雪量は年度によって異なるため、
	B (1) 概ね達成している (75%以上)		
	C (0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A (2) 有効である	B	・草刈箇所での細かな選定や刈幅の見直し等でコスト削減を図っている
	B (1) 概ね有効である		
	C (0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A (2) 課題はない・解消されている	B	・飛騨市より春期の早期除雪を要望されているが、時期が遅いほど除雪量が減るためコストダウンに繋がる一方、救急搬送ルートの確保の面からは早期の除雪が望ましいため、協議を行いながら実施している
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A (2) 課題はない・解消されている	B	・毎年の降雪量によって除雪作業量が変化しますが、なるべく雪解けを待って作業を実施している ・草刈りは見通しの悪いカーブの視距確保による交通安全対策の面からも必要な事業であるため、コスト削減を作業延長の減少で行うことは困難である
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A (2) 適正である	B	・受益者は上宝地域の住民としているが、不特定多数の住民が通行できることから、実質的な1件当たりのコストはさらに低い ・夏場は山之村地区の救急車搬送路線となっているため、広域的にも重要な路線となっている
	B (1) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A (4) 適正である	B	・大規模林道の多用途性を考慮すると、おおむね適正である
	B (2) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
合計	11.0 / 20.0	100点換算 → 55 / 100	

4 今後の方向性(Action1)

次年度の 実施方針 (担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	・春先の救急車搬送ルートの確保に対して、飛騨市神岡振興事務所と協議を行い事業を実施する				

総合評価 (二次評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	・特例期間終了後の対応を検討する必要がある。				

議会からの 提言等	
--------------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	1,000	835	△165	800	800
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	1,000	835	△165	800	800

予算要求の概要	春期開通前の除雪業務委託料 夏期の沿道草刈業務委託料
要求額増減理由	実績による減
① 支所	なし
② 本庁所管課(林務課)	
事業実施の課題	・春先に実施する除雪の負担区分について、飛騨市と調整する必要がある。
地域政策課	
除雪の必要性について、飛騨市側の負担による除雪も含めた調整が必要である。	

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	62399	新穂高登山者用駐車場管理事業	担当課	上宝支所 基盤産業課	内線	3931
予算	会計	1 一般会計	特別予算の位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6 商工費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2 観光費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	2 観光施設費		D	その他事業	
市長の約束	1	積極的な観光振興策を実施します。 ・観光まちづくりを持続可能なものとするため、飛騨地域の民間組織と行政、観光関係者をはじめ、地域住民などの関係者と幅広く連携し、広域ネットワーク化を図ります。 ・飛騨高山の自然環境を利用したグリーンツーリズムに加え温泉や高山で作られた高品質の食材を使ったヘルスツーリズム、自分だけの製品をつくるクラフトツーリズムなど、地元の産業と一体となった新たな旅行スタイルを生みだします。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上宝支所地域の住民	受益者数	3,474 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・観光客受入体制の整備		
概要	事業の実施手法(手段)	・登山シーズンにおける登山者用駐車場の交通整理及び警備、仮設トイレ設置、場内清掃業務を委託により実施		
	前回の評価からの改善・改革のポイント			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
①	交通整理及び警備日数	日	目標値	42	39	41	50
			実績値	33	33		
算出根拠等	計画日数/実施日数		達成率(%)	127	118		-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
②			目標値				
			実績値				
算出根拠等			達成率(%)				-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
①	登山者の対前年比割合	%	目標値	110	110	100	105
			実績値	107	112		-
算出根拠等	今年度登山者数/前年度登山者数		達成率(%)	97	102		-
コスト面	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
①	受益者1件当たり(円)	(A/B)	目標値	549	559	662	841
			実績値	3,608	3,529	3,474	3,460
算出根拠等			達成率(%)				-

コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	H21	H22	H23	H24		
		決算額	決算見込額	予算額	実施計画額		
	歳出(千円)	(A)	1,982	1,972	2,300	2,910	
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)	0	0	0	0		
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)	0	0	0	0		
	一般財源	1,982	1,972	2,300	2,910		
コスト指標	指標名	H21	H22	H23見込	H24計画		
		目標値	実績値				
①	受益者1件当たり(円)	(A/B)	目標値	549	559	662	841
			実績値	3,608	3,529	3,474	3,460
算出根拠等			達成率(%)				

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など	
	A(2)	B(1)			
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・登山のメッカ北アルプスへの登山口として重要な位置にあることから、利用者の利便性向上を図ることにより高山市全体のイメージアップに繋がる	
	B(1)	一部結びつく			
	C(0)	結びつかない			
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	・登山は早朝の出発が多いため、公共交通機関の利便性が悪い飛騨側ではマイカーの利用が多い	
	B(1)	ある程度のニーズがある			
	C(0)	少ない、減少している			
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	・登山客のみならず、新穂高ロープウェイ等の利用者でも多少の不便よりも無料であることを選択して当該駐車場を利用するケースもある	
	B(1)	概ね市民全体におよぶ			
	C(0)	わずかな受益者に限定される			
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	B	・東日本大震災の影響により、奥飛騨温泉郷全体の入込客数が減少しているが、節電のための避暑地への誘客キャンペーン等により減少幅が最小限にとどめられている	
	B(1)	概ね達成している (75%以上)			
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)			
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	・現状の施設及び管理体制でのサービス向上の上積みは困難であるため、事業拡大によるサービス向上の検討が必要である	
	B(1)	概ね有効である			
	C(0)	見直しが必要である			
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	・中高年層を中心とする登山ブームによる利用者の増加と、新穂高流路工整備による市営駐車場(有料)の収容台数が減少したため、登山者用駐車場の収容台数では不足する日が生じている	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	・登山は天候や曜日の並びに左右されるため、コスト削減を警備日数で調整することは困難である	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	・登山者用駐車場の直接の受益者は登山者であるが、最終的には地域へ利益が還元されるため、地区住民を受益者としている	
	B(1)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	・有人の駐車場であることの安心感等、目に見えないものを考慮すると、おおむね適正である	
	B(2)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
合計		11.0 / 20.0	100点換算		55 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・今年度の入込動向を注視しながら、需要予測を行い実施する				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	(担当課評価に同じ)				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	2,300	2,910	610	2,900	2,900
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	2,300	2,910	610	2,900	2,900

予算要求の概要	仮設トイレ設置 混雑時場内警備、交通整理
要求額増減理由	登山者数の増加に対応した警備体制の拡充に伴う増
①支所	ピーク時の駐車場収容可能台数が不足しているため、右俣・左俣林道への違法駐車が増えない。緊急車両や作業車両の通行確保のために道路管理者・警察との協議が必要。
②本庁所管課(観光課)	駐車場対策と併せて、登山者への違法駐車対策を強化する必要がある。
地域政策課	
	需要と供給量を想定したうえで、総合的な登山者用駐車場対策の方針を定めることが必要である。

財務部査定の考え方	要求どおり
市長査定の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	62199	奥飛騨温泉郷誘客キャンペーン推進事業	担当課	上宝支所 基盤産業課	内線	3931
予算	会計	1 一般会計	特別予算の位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6 商工費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2 観光費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1 観光振興費		D	その他事業	
市長の約束	1	積極的な観光振興策を実施します ・観光まちづくりを持続可能なものとするため、飛騨地域の民間組織と行政、観光関係者をはじめ、地域住民などの関係者と幅広く連携し、広域ネットワーク化を図ります。 ・飛騨高山の自然環境を生かしたグリーンツーリズムに加え温泉や高山で作られた高品質の食材を使ったヘルスツーリズム、自分だけの製品をつくるクラフトツーリズムなど、地元の産業と一体となった新たな旅行スタイルを生みだします。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人を目指します。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上宝支所地域の住民	受益者数	3,474人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・誘客キャンペーンの実施により観光入込客の増加を図り、地域活性化につなげる		
概要	事業の実施手法(手段)	・奥飛騨温泉郷観光協会が実施する誘客宣伝事業への助成		
	前回の評価からの改善・改革のポイント			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	算出根拠等	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
					目標値	実績値		
①	観光協会事業計画・実績報告	キャンペーン実施回数	回	目標値	4	3	3	3
				実績値	4	5		
				達成率(%)	100	167		-
成果指標	算出根拠等	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
					目標値	実績値		
①	観光動態データ	延入込客数	千人	目標値	1,500	1,500	1,300	1,500
				実績値	1,292	1,262		-
				達成率(%)	86	84		-
コスト面	算出根拠等	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
					目標値	実績値		
①	観光動態データ	受益者1件当たり(円)	(A/B)	目標値	831	850	864	867
				実績値	3,608	3,529	3,474	3,460
				達成率(%)				-
事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)				H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額	
歳出(千円)(A)				3,000	3,000	3,000	3,000	
受益者負担(使用料・負担金等)								
その他特定財源(国・県支出金・起債等)								
一般財源				3,000	3,000	3,000	3,000	
コスト面				H21	H22	H23見込	H24計画	
①	受益者	上宝支所地域の住民	(B)	目標値	831	850	864	867
				実績値	3,608	3,529	3,474	3,460
				達成率(%)				-
				算出根拠等				

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・2月下旬の群発地震及び東日本大震災以降、観光客の入込みが減少しているが、「元氣な飛騨高山、安全な飛騨高山」を積極的にPRするために、誘客事業が必要である
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	・誘客キャンペーンは外部に対して実施するものであるため直接市民のニーズには結び付かないが、観光入込客数の増加が地域活性化に繋がる
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	・キャンペーン実施時に奥飛騨のみならず周辺観光地を併せて紹介することで、高山市全体への誘客が期待できる
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	B	・当初計画以上の事業を実施し、成果指標の目標値を概ね達成している
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	・東日本大震災の影響や北陸新幹線延伸などを考慮して、北陸、西日本を中心にキャンペーンを展開するなど、状況に応じた事業を実施している
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	・東日本大震災、高速道路無料化終了など、観光産業にとってマイナス要因の大きい年ではあるが、入込客数増加に向けた効果的な取り組みを実施している
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	・限られた予算で最大の効果が発揮できるよう取り組んでいるが、媒体を通じてのキャンペーンにはある程度の支出は避けられない
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	・イベントの直接の受益者は観光客であるが、最終的には地域へ利益が還元されるため、地区住民を受益者としている
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	・周辺地域への波及効果を考慮すると、おおむね適正である
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		11.0 / 20.0	100点換算	55 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・誘客キャンペーン内容や実施時期等を精査し、少ない投資で最大の効果が得られるよう検討を行い実施する				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・誘客事業については市域全体又は広域での取り組みを行う必要がある。 ・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	3,000	3,000	0	3,000	3,000
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	3,000	3,000	0	3,000	3,000

予算要求の概要	誘客宣伝事業に対する助成
要求額増減理由	
①支所	事業の有効性を判断するための指標となる観光客の純増数を把握するのが困難である。
②本庁所管課(観光課)	地域振興特別予算の見直し時期までに、今後の方向性を定める必要がある。
地域政策課	
今までの取り組みを検証し、地域振興特別予算措置期間終了後を見据えた方針の策定が必要である。	

財務部査定の考え方	要求どおり
市長査定の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	62499	北アルプス飛騨側登山道等維持管理事業	担当課	上宝支所 基盤産業課	内線	3931
予算	会計	1 一般会計	特別予算の位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6 商工費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2 観光費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	3 自然公園費		D	その他事業	
市長の約束	1	積極的な観光振興策を実施します。 ・飛騨高山の自然環境を利用したグリーンツーリズムに加え温泉や高山で作られた高品質の食材を使ったヘルスツーリズム、自分だけの製品をつくるクラフトツーリズムなど、地元の産業と一体となった新たな旅行スタイルを生みだします。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上宝支所地域の住民	受益者数	3,474 人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	・登山道維持管理事業による北アルプス登山者の安心・安全確保及び周辺整備		
概要	事業の実施手法(手段)	・登山道整備の実施団体である「北アルプス飛騨側登山道等維持連絡協議会」に対し、事業運営費用の一部を負担金として支出する		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
①	協議会との打合せ	回	目標値	2	2	3	3.0
			実績値	2	2	-	-
算出根拠等			達成率(%)	100	100	-	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
②	登山者の対前年比割合	%	目標値	110	110	100	105
			実績値	107	112	-	-
算出根拠等	今年度登山者数/前年度登山者数		達成率(%)	97	102	-	-
コスト面	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
①	受益者1件当たり(円)	(A/B)	目標値	554	567	576	578
			実績値	3,608	3,529	3,474	3,460
算出根拠等			達成率(%)				

コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	H21	H22	H23	H24
		決算額	決算見込額	予算額	実施計画額
	歳出(千円)	(A) 2,000	2,000	2,000	2,000
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)				
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				
	一般財源	2,000	2,000	2,000	2,000

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・登山のメッカ北アルプスへの飛騨側登山道として重要な路線であることから、登山者の安心・安全の確保を図ることにより高山市全体のイメージアップと登山客の増加に繋がる
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	・近年の中高年齢層を中心とする登山ブームにより、登山道の安全確保は重要な課題となっている
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	・登山レベルがまちまちな不特定多数の登山者が利用する道であるため、安心安全の確保とともにイメージアップの効果は市民全体に及ぶ
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	B	・東日本大震災の影響により、奥飛騨温泉郷全体の入込客数が減少しているが、節電のための避暑地への誘客キャンペーン等により減少幅が最小限にとどめられている
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	A	・長野県側の登山道の大部分を所管する松本市山岳観光課より高山市の登山道整備手法について照会があったことから、現在の実施方法は有効であると判断している
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	A	・北ア連対協や観光協会へ登山道に関する苦情等は入っていないため、整備の効果は上がっている
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	・山小屋オーナー等を中心として組織する団体が整備を実施する方法は、請負による整備よりコスト削減に繋がっている
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	・登山道を整備することによる直接の受益者は登山者であるが、最終的には地域へ利益が還元されるため、地区住民を受益者としている
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	・登山者の安全確保、労力軽減等目に見えないものを考慮すると、おおむね適正である
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		13.0 / 20.0	100点換算	65 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	・現状で事業を実施する				

総合評価(二次評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	(担当課評価に同じ)				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	2,000	2,000	0	2,000	2,000
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	2,000	2,000	0	2,000	2,000

予算要求の概要	登山道整備事業負担金
要求額増減理由	
①支所	
②本庁所管課(地域政策課)	
地域振興特別予算措置期間終了後を見据えた方針の策定が必要である。	
地域政策課	

財務部査定の考え方	要求どおり
市長査定の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	72199	地域道路橋りょう管理振興事業費 (市道未登記用地測量事業)	担当課	上宝支所 基盤産業課	内線	3942
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	7 土木費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2 道路橋りょう費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1 道路橋りょう総務費		D	その他事業	
市長の約束						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市道敷地所有者(上宝支所内人口)	受益者数	3,543 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	未登記路線の整備(旧町村時代に、未登記のまま道路整備した路線の登記整理)		
概要	事業の実施手法(手段)	岐阜県公共嘱託登記士地家屋調査士協会へ委託をし、路線ごとに処理を進めていく		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 未登記解消(業務発注路線数)	算出根拠等	目標値	本		10	10	10
実績値				9	8			
達成率(%)				90	80		-	
算出根拠等								
②	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	算出根拠等	目標値						
		実績値						
	達成率(%)							
算出根拠等								
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	算出根拠等	目標値						
		実績値						
	達成率(%)							
算出根拠等								
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額		
	歳出(千円)(A)		15,040	16,933	17,000	17,000		
	受益者負担(使用料・負担金等)		0	0	0	0		
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)		0	0	0	0		
	一般財源		15,040	16,933	17,000	17,000		
コスト指標	指標名		H21	H22	H23見込	H24計画		
	① 受益者1件当たり(円)(A/B)	(A/B)	4,216	4,779	4,798	4,798		
		受益者 上宝支所内人口 (B)	3,567	3,543	3,543	3,543		
	算出根拠等							

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A (2) 結びつく	C	道路管理者として行うべき事であるため。
	B (1) 一部結びつく		
	C (0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A (2) 非常に多い、急増している	B	対象地に土地を所有している場合、事業実施をすることによって実際の土地のみが課税対象になるため、税負担の軽減が図れる
	B (1) ある程度のニーズがある		
	C (0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A (2) 市民全体におよぶ	C	地域性があるため、対象地域は効果がある
	B (1) 概ね市民全体におよぶ		
	C (0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A (2) 十分に達成している (100%以上)	C	個人の資産に関わるため、単純には進んでいかない
	B (1) 概ね達成している (75%以上)		
	C (0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A (2) 有効である	C	専門部署で一括処理対応する等効率化を図る
	B (1) 概ね有効である		
	C (0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A (2) 課題はない・解消されている	B	対象物件が多岐に渡るため、単年度での完了が非常に難しい
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A (2) 課題はない・解消されている	評価対象外	各路線ごとに調査範囲が違うためコスト削減ができない。
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A (2) 適正である	評価対象外	各路線ごとに調査範囲が違うため、受益者1件当たりのコストが全て違う。
	B (1) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A (4) 適正である	評価対象外	各路線ごとに調査範囲が違うため、成果に対するコストを比較することができない。
	B (2) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
合計	2.0 / 12.0	100点換算	17 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	すべての路線が終了するまで継続して実施する。				

総合評価(二次評価)	維持・改善	○	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	・H26までに重要路線の未登記処理を解消できるよう取り組んでいく必要がある。					

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	17,000	17,000	0	17,000	17,000
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	17,000	17,000	0	17,000	17,000

予算要求の概要	市道未登記用地の調査、測量、登記に要する費用
要求額増減理由	
①支所	境界確認の立会い拒否、相続、抵当権の解除等の課題があり、処理に時間を要する
②本庁所管課(維持課)	市道未登記路線の処理については、年次計画に基づき積極的に業務委託を発注し未登記路線の解消に努める必要がある
地域政策課	
	地域振興特別予算措置期間に完了することが必要である。

財務部査定の考え方	要求どおり
市長査定の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	74799	湯の花街道環境整備保全事業		担当課	上宝支所 基盤産業課		内線	3942
予算	会計	1	一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	7	土木費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	4	都市計画費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	7	快適環境整備費		D	その他事業		
市長の約束	合併後の周辺自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	国道471号通過車両	受益者数	特定出来ず
	どういう状態にしたいのか(意図)	湯の花街道の景観美化を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	湯の花街道の草刈及び花等の補植、清掃業務委託		
前回の評価からの改善・改革のポイント	一般予算へ移行を検討する。			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	①	草刈及び補植等対象道路延長	km	目標値	30	30	30	30
実績値				30	30	30	-	
算出根拠等			達成率(%)	100	100	100	-	
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	②			目標値				
実績値							-	
算出根拠等			達成率(%)				-	
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	①			目標値				
実績値							-	
算出根拠等			達成率(%)				-	
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額		
	歳出(千円)(A)		1,413	1,413	1,500	1,542		
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)		0	0	0	0		
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)		0	0	0	0		
	一般財源		1,413	1,413	1,500	1,542		
コスト指標	指標名		H21	H22	H23見込	H24計画		
	①	受益者1件当たり(円)(A/B)		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!		
②	受益者	(B)						
算出根拠等								

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2) 結びつく	A	事業実施することによって、奥飛騨温泉郷へのアクセス道路として景観美の確保及びポケットパークとして、休憩できる場所として観光客や地元住民に喜ばれ結びついている。
	B(1) 一部結びつく		
	C(0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2) 非常に多い、急増している	A	湯の花街道(R471)は奥飛騨温泉郷への観光客や飛騨山脈登山客の主要幹線道路であり道路からの景観美、また、ポケットパークでの休憩等に利用され重要な事業である。
	B(1) ある程度のニーズがある		
	C(0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2) 市民全体におよぶ	B	観光客の増大に貢献している。また、市民の近旅行にも利用されている。
	B(1) 概ね市民全体におよぶ		
	C(0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2) 十分に達成している (100%以上)	B	湯の花街道の景観美が保たれている。
	B(1) 概ね達成している (75%以上)		
	C(0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2) 有効である	B	東日本大震災以来の観光客の落ち込みから少しでも観光客の戻りつつあることに貢献している。
	B(1) 概ね有効である		
	C(0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2) 課題はない・解消されている	B	花の支給等により出来る限り広範囲での実施に取り組んでいる。
	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2) 課題はない・解消されている	B	与えられた予算内で最大限に効果が得られるように実施している。(葛山の芝桜等)
	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2) 適正である	評価対象外	観光客の入込数が不安定であるため評価することができない。
	B(1) 概ね適正である		
	C(0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4) 適正である	B	観光客や市民の皆様にも喜ばれており、事業費に対しては効果は大である。
	B(2) 概ね適正である		
	C(0) 改善が必要である		
合計	11.0 / 18.0	100点換算	61 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	観光資源として継続して維持する。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・岐阜県が管理する道路施設の修景については、道路管理者に安全確保の観点から事業実施を要望する必要がある。 ・花の補植等については、他の類似事業と合わせ全市的な検証を行う必要がある。なお、上宝地域の地域振興となるよう実施し、事業効果を精査する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	1,500	1,542	42	1,500	1,500
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	1,500	1,542	42	1,500	1,500

予算要求の概要	国道471号沿線の景観整備にかかる経費
要求額増減理由	
①支所	継続して実施する。
②本庁所管課(都市整備課)	観光振興に繋がる景観整備として事業の継続が必要
地域政策課	
樹木花等の植栽、草刈等、地域振興特別予算で措置されている類似事業については、景観保全、安全確保等の視点から全市的な検討、調整が必要である。	

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	91499	中学校部活動生徒送迎事業	担当課	上宝支所 地域振興課	内線
					3913
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	9 教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	1 教育総務費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	3 スクールバス管理費		D	その他事業
市長の約束					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	北稜中学生	受益者数	100 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	北稜中学校の土曜日における部活動にスクールバスを運行し、遠距離通学生徒に対する参加機会の均衡を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	土曜日の部活における送迎年(長期休業期間を除く全土曜日)実施 ・路線(中尾線・平湯線) ・経費(賃金、燃料)		
	前回の評価からの改善・改革のポイント			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	①	スクールバス運行延回数	回	目標値	42	42	42	42
算出根拠等		スクールバスの運行回数	実績値	42	42			
	算出根拠等	達成率(%)		100	100	-	-	
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	①	部活バス延利用人数	人	目標値	1,512	1,512	1,806	1,800
算出根拠等		バス運行回数×1回の利用人数	実績値	1,512	1,512			
	算出根拠等	達成率(%)		100	100	-	-	
コスト面	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	①	受益者1件当たり(円)	(A/B)	目標値	5,060	5,570	5,600	5,730
算出根拠等		受益者 北稜中学校 (B)	実績値	100	100	100	100	
	算出根拠等	達成率(%)						
財務内訳	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額		
	歳出(千円)		(A)	506	557	560	573	
コスト指標	指標名		H21	H22	H23見込	H24計画		
	受益者負担(使用料・負担金等)							
その他特定財源(国・県支出金・起債等)								
一般財源			506	557	560	573		

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A (2) 結びつく	A	遠隔地を抱える地域の特性であり、均衡ある教育環境の整備に努める必要性からも大いに結びつく
	B (1) 一部結びつく		
	C (0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A (2) 非常に多い、急増している	A	市内でもっとも広大で起伏に富んだ地形のため、運行の確保が強くとめられる
	B (1) ある程度のニーズがある		
	C (0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A (2) 市民全体におよぶ	C	対象が北稜中の部活動参加者のみであり一部分に限定される
	B (1) 概ね市民全体におよぶ		
	C (0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A (2) 十分に達成している (100%以上)	A	全生徒が部活動に参加することができ、心身ともに健全な学校生活を送ることができる
	B (1) 概ね達成している (75%以上)		
	C (0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A (2) 有効である	B	教育環境が整備されることにより、生徒の個性と能力が発揮できる
	B (1) 概ね有効である		
	C (0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A (2) 課題はない・解消されている	A	奥飛騨連合町内会要望に対し運行を継続すると回答済み
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A (2) 課題はない・解消されている	A	必要最小限の運行形態を継続している
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A (2) 適正である	B	必要最小限の運行形態を継続している
	B (1) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A (4) 適正である	A	遠距離通学生徒に通学の足を確保することにより、部活動に専念でき、成果が上がっている。
	B (2) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
合計		16.0 / 20.0	100点換算 → 80 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	遠距離通学生徒に対する部活動への同校内での参加機会の均衡を確保するために現状を維持する。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・公共交通での対応も視野に入れながら、スクールバス利用についての考え方を調整する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	560	573	13	580	580
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	560	573	13	580	580

予算要求の概要	部活動に参加する遠距離通学生徒送迎のためのスクールバス運行経費
要求額増減理由	
①支所	全市域的な運行方針のバランスを取りながら、遠距離通学生徒が部活動へ参加する交通手段を確保する必要がある
②本庁所管課(教育総務課)	合併前から実施しているものであり、遠距離という地域性を考慮し次年度も実施する。今後、公共交通事業との関連や部活動のあり方を精査のうえ、全市的に検討することとする。
地域政策課	
	部活動に係るスクールバス利用については、全市的な在り方の検討が必要である。

財務部査定の考え方	要求どおり
市長査定の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	94199	花いっぱい運動推進事業 (花苗購入)	担当課	上宝支所 地域振興課	内線	3913
枝番	1					
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4 社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1 社会教育総務費		D	その他事業	
市長の約束	4	個人・家庭・地域を大切にすることを築きます ・市民が幸せな家庭生活を送り、安心して暮らせる地域を築くため、地域の自立的なコミュニティ活動や環境整備事業の予算枠を確保します。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上宝町・奥飛騨温泉郷地区市民	受益者数	3,474 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	町内会や施設に対し花苗を配布し、地域や道路沿いの花壇での植栽管理を実施してもらうことで、地域全体を花で飾り市民憲章の具現化を図る		
概要	事業の実施手法(手段)	町内会等に配布する花苗の購入(春秋2回6種類) 地元住民で管理できない国道沿いの大きな花壇を業者に管理してもらう		
	前回の評価からの改善・改革のポイント			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 花苗の数		株	目標値	50,000	50,000	50,000	50,000
算出根拠等	各町内他からの要望花株数		達成率(%)		102	102	-	
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	②			目標値				-
算出根拠等			達成率(%)				-	
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 花苗植栽参加団体		件	目標値	21	21	21	21
算出根拠等	町内会等数		達成率(%)		100	100	-	
コスト面	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	②			目標値				-
算出根拠等			達成率(%)				-	
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額		
	歳出(千円)		(A)	2,152	2,284	2,500	2,500	
コスト面	受益者負担(使用料・負担金等)							
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
コスト面	一般財源		2,152	2,284	2,500	2,500		
	指標名		H21	H22	H23見込	H24計画		
①	受益者1件当たり(円)	(A/B)	619	657	720	720		
②	受益者	上宝町・奥飛騨温泉郷地区市民(B)	3,474	3,474	3,474	3,474		
算出根拠等								

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2) 結びつく	A	市民憲章の精神にもとづき地域等花いっぱい運動を展開しています。その一環として花づくりを行う
	B(1) 一部結びつく		
	C(0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2) 非常に多い、急増している	B	花苗の注文数が少ずつ増えていることは、地域住民による環境美化の意識向上のあらわれである
	B(1) ある程度のニーズがある		
	C(0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2) 市民全体におよぶ	A	地域の人のみでなく訪れる人全てに対して、美しい環境を見て、感じてもらうことができ効果的である
	B(1) 概ね市民全体におよぶ		
	C(0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2) 十分に達成している (100%以上)	A	町内会や施設管理者の多くが花いっぱい運動に参加していることは、美しい環境づくりを回ろうとするあらわれである
	B(1) 概ね達成している (75%以上)		
	C(0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2) 有効である	A	地域のなかで子どもから高齢者が一緒に花を育てることにより、住民相互のコミュニティが生まれる
	B(1) 概ね有効である		
	C(0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2) 課題はない・解消されている	B	今後とも地域住民みんなで花いっぱい運動をととして助け合い、コミュニティの醸成が継続するよう努める
	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2) 課題はない・解消されている	A	地元の花苗生産者により花苗を種から作り育ててもらっているため、コスト的には安価となっている
	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2) 適正である	B	花いっぱい運動により、地域住民の環境美化や住民相互の交流等が図られておることは概ね適正である
	B(1) 概ね適正である		
	C(0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4) 適正である	B	花を育てることにより、地域住民が思いを同じにして作業を進められることはこらからの組織強化にもつながる
	B(2) 概ね適正である		
	C(0) 改善が必要である		
合計	15.0 / 20.0	100点換算	75 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	市民憲章の具現化に努めるとともに、岐阜清流国体の推進体制強化のため継続する。				

総合評価(二次評価)	維持・改善	拡大	○ 縮小	廃止の検討	完了
	・「花いっぱい運動」に対しては、当該地域振興予算のほか、一般予算による補助金(市民憲章推進事業補助金、特色ある地区活動事業補助金等)が直接・間接に助成されており、地域振興特別予算の終期も踏まえた助成のあり方を再検討するとともに、事業費規模などについても検討する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	2,500	2,500	0	2,500	2,500
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	2,500	2,500	0	2,500	2,500

予算要求の概要	花苗購入にかかる経費
要求額増減理由	
①支所	市民と市との役割分担を明確にし、花苗の配布や花壇管理の方法について全市統一的な運営方針を確立することが必要である。
②本庁所管課(市民活動推進課)	地域社会教育推進事業は、花いっぱい運動に係る経費として全支所地域において地域振興特別予算に計上されており、管理委託や花苗等の配付等、地域によって異なっている。現在、市民憲章推進協議会が実施している花いっぱい運動に対する助成等類似事業との関係を整理しているところであり、当面、当該事業を継続するなかで、事業のあり方や一般予算との関係等を整理する必要がある。
地域政策課	
同上	

財務部査定の考え方	要求どおり
市長査定の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	94199	花いっぱい運動推進事業 (花壇の管理委託)	担当課	上宝支所 地域振興課	内線	3913
枝番	2					
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4 社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1 社会教育総務費		D	その他事業	
市長の約束	4	個人・家庭・地域を大切にすることを築きます ・市民が幸せな家庭生活を送り、安心して暮らせる地域を築くため、地域の自立的なコミュニティ活動や環境整備事業の予算枠を確保します。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	受益者数	93,312 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	町内会や施設に対し花苗を配布し、地域や道路沿いの花壇での植栽管理を実施してもらうことで、地域全体を花で飾り市民憲章の具現化を図る		
概要	事業の実施手法(手段)	町内会等に配布する花苗の購入(春秋2回6種類) 地元住民で管理できない国道沿いの大きな花壇を業者に管理してもらう		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
① 花壇面積	面積 巾1m×長さ600m	㎡	目標値	600	600	600	600
			実績値	600	600		
算出根拠等	達成率(%)			100	100		-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
① 花苗の数	株	株	目標値	5,000	5,000	5,000	5,000
			実績値	5,200	5,200		-
算出根拠等	達成率(%)			104	104		-
算出根拠等	サルビアの花苗5000株						
コスト面	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
① 花苗の数	株	株	目標値				
			実績値				-
算出根拠等	達成率(%)						-
事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)				H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額
歳出(千円)(A)				1,071	767	1,000	1,000
受益者負担(使用料・負担金等)							
その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
一般財源				1,071	767	1,000	1,000
コスト指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
① 受益者1件当たり(円)	(A/B)	(円)	目標値	11	8	11	11
			実績値				
② 受益者	全市民	(人)	目標値	94,235	93,822	93,312	93,300
			実績値				
算出根拠等	達成率(%)						-

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	市民憲章の精神にもとづき地域等花いっぱい運動を展開しており、大いに結びつく
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	A	ぎふ清流国体の開催に伴い600㎡の花壇を花で飾り、美しい景観を形成することへの必要性は急増している
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	景観に対する関心は年々高まってきており、471号線を美しい花で飾ることにより、そこを通る多数の人のところに効果を及ぼしている
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	A	7月～10月の4か月間にわたり、いっせいに5,000本のサルビアが咲き揃う景観は見応えがあり十分に達成している
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	住んでいる環境を美しくすることは、ごみのポイ捨てや路上喫煙に対しても抑制効果をもたらす、美観を維持することに有効である
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	C	地域の人口減少に伴い町内会独自の維持管理が困難な状況にある
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	年間を通して花苗の水やり、草取りに多くの時間と労力を必要とする。草については、マルチをかけ少しでも草が出ないように、労力減となるよう取り組んでいる
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	沿道を通る多くの人に潤いとおちつきを与えることができ、美しい環境地域を維持しようとする気持ちを醸成する効果は大であり、コストは適正である
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	面積の大きい花壇の維持管理には、水やり、草取りが大変な労力を必要としているが、いっせいに咲き誇る時に大きな成果をもたらす適正である
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		12.0 / 20.0	100点換算 → 60 / 100	

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	平成24年のぎふ清流国体の推進体制強化のために継続する。				

総合評価(二次評価)	維持・改善	拡大	○ 縮小	廃止の検討	完了
	・「花いっぱい運動」に対しては、当該地域振興予算のほか、一般予算による補助金(市民憲章推進事業補助金、特色ある地区活動事業補助金等)が直接・間接に助成されており、地域振興特別予算の終期も踏まえた助成のあり方を再検討するとともに、事業費規模などについても検討する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部 調整額	市長 査定額
歳出(千円)	1,000	1,000	0	1,000	1,000
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	1,000	1,000	0	1,000	1,000

予算要求の概要	花壇の管理委託
要求額増減理由	
①支所	当該花壇の地域は地元住民による維持管理が困難であり、木枠の腐食も進んでいるため、見直しが必要である。
②本庁所管課(市民活動推進課)	地域社会教育推進事業は、花いっぱい運動に係る経費として全支所地域において地域振興特別予算に計上されており、管理委託や花苗等の配付等、地域によって異なっている。現在、市民憲章推進協議会が実施している花いっぱい運動に対する助成等類似事業との関係を整理しているところであり、当面、当該事業を継続するなかで、事業のあり方や一般予算との関係等を整理する必要がある。
地域政策課	
同上	

財務部査定の考え方	要求どおり
市長査定の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	94699	地域文化芸術助成事業	担当課	上宝支所 地域振興課	内線	3913
予算	会計	1 一般会計	特別予算の位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4 社会教育		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	6 文化振興費		D	その他事業	
市長の約束	9	伝統文化を守り、次代へ継承します。芸術文化の振興を積極的に支えます。心の中や生活に潤いと豊かさを醸し出し、生きがいや、若者の社会参加へのやる気づくりにもつながら芸術文化活動をさらに浸透させ、広げていくために、芸術文化の保存と継承、新たな芸術文化の創出のための予算を総予算枠の1%以上確保します。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上宝町・奥飛騨温泉郷地区市民	受益者数	3,474 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	地域に根ざした芸術文化の振興を図り、地域のコミュニティを醸成する。		
概要	事業の実施手法(手段)	たから社会教育運営委員会が開催する文化祭(作品展、芸術発表)に対する補助金の交付		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	算出根拠等	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
					目標値	実績値		
①	作品展・芸術発表への入場者数	人	目標・実績	目標値	1,300	1,300	1,300	1,300
				実績値	1,300	1,320		
算出根拠等				達成率(%)	100	102		-
②	算出根拠等	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
					目標値	実績値		
算出根拠等				達成率(%)				-
①	算出根拠等	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
					目標値	実績値		
算出根拠等				達成率(%)	70	150		-
②	算出根拠等	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
					目標値	実績値		
算出根拠等				達成率(%)				-

コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)							
	H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額				
	歳出(千円)	(A) 250	250	250	250			
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)							
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
	一般財源	250	250	250	250			
①	算出根拠等	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
					目標値	実績値		
算出根拠等				達成率(%)	72	72	72	72
算出根拠等				達成率(%)	3,474	3,474	3,474	3,474

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準			評価	評価内容の説明など	
	A(2)	B(1)	C(0)			
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく		A	文化活動の場の提供や文化にふれる機会の充実など文化的環境の醸成に寄与する	
	B(1)	一部結びつく				
	C(0)	結びつかない				
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している		B	日頃の練習成果を発表する場としてまた、地域住民相互が触れ合う機会の場合として継続に対し市民の根強い要望がある	
	B(1)	ある程度のニーズがある				
	C(0)	少ない、減少している				
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ		B	広報等で市民に周知し、広く参加や観覧を得ている	
	B(1)	概ね市民全体におよぶ				
	C(0)	わずかな受益者に限定される				
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)		A	芸術発表や作品の展示等計画的に開催されている	
	B(1)	概ね達成している (75%以上)				
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)				
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である		B	心や生活に潤いと豊かさを与える場として、また生きがいや、若者の社会参加を促す機会としても寄与している	
	B(1)	概ね有効である				
	C(0)	見直しが必要である				
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている		B	年々出展・芸術発表者の技術面では高くなってきているものの、発表する人が固定化しつつあるため、多くの人が発表・展示会に参加するよう取り組んでいる	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる				
	C(0)	対応していない				
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている		B	多くの人に参加呼びかけするために、ポスター・チラシの作製や配布等に予算を多く使用している。今後どのような方法が参加増となるのかより有効なPR方法を検討している	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる				
	C(0)	対応していない				
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である		B	たから社教委員会と連絡を密にしながら芸術講演や作品展示を開催することは、地域住民の生きがいや若者の社会参加の意識の高揚がはかられており概ね適正である	
	B(1)	概ね適正である				
	C(0)	改善が必要である				
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である		B	多くの地域住民に参加してもらい、文化活動発表や展示会を開催することにより多くの市民が文化に親しむことが概ね適正である	
	B(2)	概ね適正である				
	C(0)	改善が必要である				
合計				12.0 / 20.0	100点換算	60 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	○	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	地域に根ざした文化・芸術祭など活動発表の場の提供を支援することにより、文化意識の高揚が図られるため継続する。					

総合評価(二次評価)	維持・改善	拡大	○	縮小	廃止の検討	完了
	・全市的なバランスのなかから、地域振興特別予算の終期も踏まえた助成のあり方の再検討や事業費規模などについて、検討する必要がある。 ・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。					

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	250	250	0	250	250
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	250	250	0	250	250

予算要求の概要	地域文化祭・展示会の開催に対する助成
要求額増減理由	
①支所	文化祭への参加者、展示会への出展者が固定化しているため、より多くの方々に参加してもらえよう工夫する必要がある。
②本庁所管課(生涯学習課)	地域文化振興事業は、地域の公民館等において開催される文化祭・芸術祭、文化講演会等に対する助成として全支所地域において地域振興特別予算に計上されているが、地域によって、内容・実施主体・助成割合等が異なっているため、一定のルール化について検討する必要がある。また、文化芸術鑑賞事業等一般予算で行っている文化振興事業と地域文化振興事業との関係についても整理する必要がある。
地域政策課	
同上	

財務部査定の考え方	要求どおり
市長査定の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	94699	地域文化振興事業		担当課	上宝支所 地域振興課		内線	3913
予算	会計	1	一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	9	教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	4	社会教育		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	6	文化振興費		D	その他事業		
市長の約束	82	伝統文化を守り次世代へ継承します。 ・心の中や生活に潤いと豊かさを醸し出し、生きがいや、若者の社会参加へのやる気づくりにも つながる芸術文化活動をさらに浸透させ、広げていくために、芸術文化の保存と継承、新たな 芸術文化の創出のための予算を総予算枠の1%以上確保します。						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上宝町・奥飛騨温泉郷地区市民	受益者数	3,474 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	優れた芸能文化にふれる機会の充実を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	地域が主体となって取り組む文化振興事業に対する助成金		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
①	チラシの印刷枚数	枚	目標値	1,500	1,500	1,500	1,500
			実績値	1,500	1,500		
算出根拠等	イベント開催用チラシ印刷枚数		達成率(%)	100	100		-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
①	文化振興事業入場者数	人	目標値	300	500	500	500
			実績値	360	510		-
算出根拠等	講演会等に市民が参加した人数		達成率(%)	120	102		-
コスト面	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
①	文化振興事業入場者数	人	目標値				
			実績値				-
算出根拠等			達成率(%)				-
事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)				H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額
歳出(千円)(A)				1,300	1,300	1,300	1,300
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
一般財源				1,300	1,300	1,300	1,300
コスト指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
①	受益者1件当たり(円)	(A/B)	目標値	374	374	374	374
			実績値	374	374	374	374
算出根拠等	受益者	上宝町・奥飛騨温泉郷地区市民(B)	3,474	3,474	3,474	3,474	3,474

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	文化活動の場の提供や文化にふれる機会の充実など文化的環境の醸成に努める(7次総目標)
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	生活様式の多様化により地域住民相互のふれあいや世代間交流の場として必要とする
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	C	チラシや広報等とおし広く市民に呼び掛けているが、距離的なこともあり、会場への入場者は地元住民が大多数である
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	A	地域住民に優れた芸能文化・芸術音楽にふれる機会の充実に対し、文化意識の高揚が図られる
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	たから社会教育委員会と連携し、講演会等を行い地域における文化振興の充実が図られている
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	各支所地域でいろいろな文化振興事業が計画されている中で事業内容が類似したものについては重複を避けるよう工夫している
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	身近な人材の招へいにより、謝金や委託料の削減に努めるとともに多くの人に参加呼びかけするために、ポスター・チラシの作製や配布等に努めている
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	C	広く住民の参加を呼び掛けるが、趣味の多様化も伴って、計画した講演会等に参加者が増えない現状である。地域住民が求めるものを開催し、参加者の増加を図ることでコストの低減を図る
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	文化活動の場に参加することにより、地域住民に文化意識の高揚が図られ、効果が得られる
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		10.0 / 20.0	100点換算 → 50 / 100	

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止の検討	<input type="checkbox"/> 完了
	地域に根ざした文化・芸能祭など活動発表の場の提供を支援することにより、文化意識の高揚が図られるため継続する。				

総合評価(二次評価)	<input type="checkbox"/> 維持・改善	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止の検討	<input type="checkbox"/> 完了
	一般予算による文化芸術鑑賞事業の拡大により、H23より奥飛騨総合文化センターでも拡大実施しているため、実績や効果などを検証のうえ、整理する必要がある。 特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	1,300	1,300	0	1,300	1,300
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	1,300	1,300	0	1,300	1,300

予算要求の概要	文化講演会の開催に対する助成
要求額増減理由	
①支所	効果的な事業開催のための見直し
②本庁所管課(生涯学習課)	地域文化振興事業は、地域の公民館等において開催される文化祭・芸能祭、文化講演会等に対する助成として全支所地域において地域振興特別予算に計上されているが、地域によって、内容・実施主体・助成割合等が異なっているため、一定のルール化について検討する必要がある。また、文化芸術鑑賞事業等一般予算で行っている文化振興事業と地域文化振興事業との関係についても整理する必要がある。
地域政策課	
同上	

財務部査定の考え方	要求どおり
市長査定の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	94799	文化財標柱等設置事業	担当課	上宝支所 地域振興課	内線	3913
予算	会計	1 一般会計	特別予算の位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4 社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	7 文化財費		D	その他事業	
市長の約束						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	受益者数	93,312 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	文化財標柱の設置により、市民に対する文化財の周知を行い、文化財に対する理解と保護意識の高揚を図る。上宝ふるさと歴史館において特別展を開催することにより、郷土の文化や歴史等を広く周知する		
概要	事業の実施手法(手段)	文化財案内標柱と看板の作製委託ふるさと歴史館での特別展		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	①	文化財案内表示設置に伴う検討会開催回数	回	目標値	18	21	18
			実績値	18	21		
算出根拠等		本庁・所有者・業者との検討回数	達成率(%)	100	100		-
②	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
			目標値				
			実績値				-
算出根拠等		達成率(%)				-	
①	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	文化財案内標柱・看板設置本数	本	目標値	5	6	5	5
			実績値	5	5		
算出根拠等	文化財案内標柱・看板設置した数	達成率(%)	100	83		-	
②	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
			目標値				
			実績値				-
算出根拠等		達成率(%)				-	
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額
	歳出(千円)(A)			644	697	1,000	1,000
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			644	697	1,000	1,000
コスト指標	指標名	単位	H21	H22	H23見込	H24計画	
	① 受益者1件当たり(円)(A/B)		7	7	11	11	
	② 受益者	全市民(B)	93,312	93,312	93,312	93,312	
	算出根拠等						

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A (2) 結びつく	A	郷土の文化財を守り次代に伝えるため、歴史や文化に親しみ理解する機会の充実に寄与する
	B (1) 一部結びつく		
	C (0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A (2) 非常に多い、急増している	B	貴重な文化財を守り続けるために、また、広く住民に周知するために必要であり、ニーズがある
	B (1) ある程度のニーズがある		
	C (0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A (2) 市民全体におよぶ	B	多くの市民に文化財にふれてもらい、守り育てるためのPRとして不可欠であり、効果は市民全体に及んでいる
	B (1) 概ね市民全体におよぶ		
	C (0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A (2) 十分に達成している (100%以上)	B	計画的に標柱・看板を設置している。計画中の文化財の中には損傷しているものもあり、内容を精査しつつ整備を進めている
	B (1) 概ね達成している (75%以上)		
	C (0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A (2) 有効である	B	説明文の記述及び設置場所については、地元の郷土研究団体の協力を得ながらできる限り忠実な史実の表記に努めている
	B (1) 概ね有効である		
	C (0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A (2) 課題はない・解消されている	B	市民が歴史に楽しく、分かりやすく触れられるような記述内容の整備に努める
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑦ コスト縮減に向けた改善・工夫	A (2) 課題はない・解消されている	B	文化財の維持管理には多くの費用と手間がかかるが、できる限りコスト縮減できるよう努める
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A (2) 適正である	A	市民のみならず観光客等にも広く周知できるため十分に適正である
	B (1) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A (4) 適正である	B	文化財に標柱・看板を設置することにより広く住民に文化財の歴史を周知することができ、貴重な文化財を継承することとなるため概ね適正である
	B (2) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
合計	12.0 / 20.0	100点換算 → 60 / 100	

4 今後の方向性(Action1)

次年度の 実施方針 (担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	市の財産である郷土の文化財を守り、次代に伝えるために継続する				

総合評価 (二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	平成26年度までに完了できるよう事業を継続する必要がある。				

議会からの 提言等	
--------------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	1,000	1,000	0	1,000	1,000
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	1,000	1,000	0	1,000	1,000

予算要求の概要	文化財標柱設置にかかる経費特別展委託料
要求額増減理由	
① 支所	優先順位等を適正に判断し計画的に実行する。
② 本庁所管課(文化財課)	文化財標柱・説明看板の設置は文化財保存や啓発の観点から必要であり、設置計画に基づき計画的に設置を進める必要がある。
地域政策課	
	計画的に実施し、地域振興特別予算措置期間に設置完了することが必要である。

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	95199	地域スポーツ振興事業	担当課	上宝支所 地域振興課	内線	3913
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	5 保健体育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1 体育総務費		D	その他事業	
市長の約束						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上宝町・奥飛騨温泉郷地区市民	受益者数	3,474 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	上宝町・奥飛騨温泉郷の両町民を対象として、スポーツ交流事業を実施することにより、地域の連携と活性化を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	地域スポーツ大会の開催(主催 たから社会教育運営委員会)の補助金 はつらつ運動会・駅伝・柔道・バレーボール他		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
①	スポーツ大会の参加者	人	目標値	400	400	400	400
			実績値	400	400		
算出根拠等	スポーツ競技に参加の数		達成率(%)	100	100		-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
①	参加者増加率	%	目標値	100	100	100	100
			実績値	95	100		-
算出根拠等	前年比		達成率(%)	95	100		-
コスト面	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
②			目標値				
			実績値				-
算出根拠等			達成率(%)				-
事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)				H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額
歳出(千円)(A)				450	450	450	450
受益者負担(使用料・負担金等)							
その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
一般財源				450	450	450	450
コスト面				H21	H22	H23見込	H24計画
①	受益者1件当たり(円)(A/B)		目標値	1,125	1,125	1,125	1,125
			実績値	400	400	400	400
算出根拠等			達成率(%)				-

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準			評価	評価内容の説明など	
	A(2)	B(1)	C(0)			
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく		A	誰もが生涯を通じてスポーツに親しむことができる環境をつくる(7次総目標)	
	B(1)	一部結びつく				
	C(0)	結びつかない				
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している		B	ストレスの発散や生活習慣病の予防など、心身の健康保持のために安定した参加がある	
	B(1)	ある程度のニーズがある				
	C(0)	少ない、減少している				
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ		B	ぎふ国体を契機に多くの市民がスポーツに興味を持ち、多くの市民が参加している	
	B(1)	概ね市民全体におよぶ				
	C(0)	わずかな受益者に限定される				
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)		B	一人ひとりのスポーツの好みが多様化し、スポーツ大会への参加者はある程度多いのだが1種目ごとになると参加者は少ない	
	B(1)	概ね達成している (75%以上)				
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)				
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である		B	体育指導委員や社教の体育部が互いに協力し合い、多くの人が参加しやすいスポーツ教室やスポーツイベントとなるよう計画されている	
	B(1)	概ね有効である				
	C(0)	見直しが必要である				
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている		B	開催時期が、盛夏を避けた秋近くとなるため、農繁期や、観光シーズンと重なる。忙しい中ではあるが、参加したら息抜きできるようなスポーツ大会になるよう検討している	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる				
	C(0)	対応していない				
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている		B	スポーツ施設も年数がたち、いろいろな所で傷みがはげしくなっている。安全面の確保について検討も必要である	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる				
	C(0)	対応していない				
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である		B	身近なスポーツを通して、健康を維持することができることは医療費等の減少にもつながり、波及効果が大きいため概ね適正である	
	B(1)	概ね適正である				
	C(0)	改善が必要である				
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である		B	身近なスポーツを通して、健康を維持することができることは医療費等の減少にもつながり、波及効果が大きいため概ね適正である	
	B(2)	概ね適正である				
	C(0)	改善が必要である				
合計				11.0 / 20.0	100点換算	55 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	○	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	ぎふ清流国体の開催に向け、スポーツ人口の増加と心身の健康維持のためにも継続して実施する					

総合評価(二次評価)	維持・改善	拡大	○	縮小	廃止の検討	完了
	・地域の自主的な活動とすべく、負担金の段階的な引き下げを行う必要がある。 ・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。					

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部 調整額	市長 査定額
歳出(千円)	450	450	0	450	450
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	450	450	0	450	450

予算要求の概要	地域スポーツ大会の開催に対する助成
要求額増減理由	
①支所	種目により参加者のばらつきがあるので、種目を精査しより多くの人に参加してもらえるように努める。
②本庁所管課(スポーツ振興課)	地域スポーツ振興事業は、地域の特性に応じた各種大会の開催や地域におけるスポーツ活動の推進等に対する助成として全支所地域において地域振興特別予算に計上されている。現在、一般予算の中で地域におけるスポーツ教室の開催方法やスポーツイベントのあり方等について検討しているところであり、当面、当該事業を継続する中で、事業のあり方や一般予算との関係等を整理する必要がある。
地域政策課	
同上	

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	20999	集落支援員設置事業		担当課	上宝支所 地域振興課		内線	3911	
予算	会計	1	一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事			
	款	2	総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業			
	項	1	総務管理費		O	C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	9	企画費		D	その他事業			
市長の約束									

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	限界集落住民	受益者数	68人
	どういう状態にしたいのか(意図)	「集落支援員」を設置し、定期的な集落の巡視や後継者不足などにより実施が困難となっている地域行事、農作業などに協力することで、進行する人口減少・高齢化に伴い、低下しつつある地域コミュニティ機能の維持・向上を図る。さらには、集落支援員として他地域の若者を受け入れることで、同時に新たな地域資源の発掘などによる地域活性化を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	農山村地域への研修派遣事業を実施しているNPO法人からの研修生を地域に派遣し、地域の活性化に向けての支援活動を行う。		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 集落支援員集落派遣	算出根拠等	集落からの出役作業要請日数	日	目標値	-	-	70
				実績値	-	-	-	-
	算出根拠等			達成率(%)	-	-	-	-
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 集落住民満足度	算出根拠等	集落住民に聞き取り調査	人	目標値			68
				実績値	-	-	-	-
	算出根拠等			達成率(%)	-	-	-	-
コスト面	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 受益者1件当たり(円)	算出根拠等			目標値			39,706
				実績値			68	68
	算出根拠等			達成率(%)				

事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額
歳出(千円)	(A)		2,100	1,992
受益者負担(使用料・負担金等)				
その他特定財源(国・県支出金・起債等)				
一般財源			2,100	1,992

コスト面	指標名	H21	H22	H23見込	H24計画
① 受益者1件当たり(円)	(A/B)			39,706	36,765
	受益者 上宝支所管内限界集落(B)			68	68
	算出根拠等				

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2) 結びつく	A	地域力低下が著しい限界集落が、手を取り合って取組む活動等に地域外から支援するということで活性化が図れる。
	B(1) 一部結びつく		
	C(0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2) 非常に多い、急増している	B	集落全体や個人を問わず、作業などを手伝ってほしいと地域より要望がある。
	B(1) ある程度のニーズがある		
	C(0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2) 市民全体におよぶ	C	限界集落数が少数のため、効果の範囲が限定される。
	B(1) 概ね市民全体におよぶ		
	C(0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2) 十分に達成している (100%以上)	評価対象外	「H23新規事業のため」
	B(1) 概ね達成している (75%以上)		
	C(0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2) 有効である	A	他地域の若者が、限界集落の作業に参加することにより、地域の活性化に有効である。
	B(1) 概ね有効である		
	C(0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2) 課題はない・解消されている	A	集落と支援員との連絡体制を密にし、事前に作業日程を調整することで効率的な日程の支援を図っている。
	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2) 課題はない・解消されている	B	一ヶ月先までの集落ニーズを把握し、詳細なスケジュールを組むことで、支援員の移動や作業に要する時間ロス等を軽減し、コスト減につなげるよう努めている。
	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2) 適正である	B	受益者は少数であるが、地域力の向上やコミュニティの醸成に大きく寄与しており、適正である。
	B(1) 概ね適正である		
	C(0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4) 適正である	B	受益者は少数であるが、地域力の向上やコミュニティの醸成に大きく寄与しており、適正である。
	B(2) 概ね適正である		
	C(0) 改善が必要である		
合計		11.0 / 18.0	100点換算 → 61 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	集落での生活に、少しでも活力感が生まれるよう、地域のニーズの把握に努め、支援員の活動を充実させる。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	(担当課評価に同じ)				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	2,100	1,992	△108	1,950	1,950
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	2,100	1,992	△108	1,950	1,950

予算要求の概要	集落支援員の活動経費
要求額増減理由	実績に基づく経費の見直しによる減
①支所	集落支援員が交代すると、これまで築いてきた地域との関係が振り出しに戻るため、同一人物を継続して就任させるように、派遣先との調整が必要。
②本庁所管課(地域政策課)	集落支援員の設置期間内経過後も、定住に結びつけられるしくみづくりが必要である。
地域政策課	

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	21399	地域災害対策推進事業	担当課	上宝支所 地域振興課	内線	3911
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2 総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1 総務管理費		O	C 終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	13 災害対策本部費		D	その他事業	
市長の約束	52	土石流等の自然災害に備える防災施設の施工を進め、実践的な防災訓練を実施します。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	奥飛騨温泉郷地域住民	受益者数	1,498 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	焼岳における気象庁の噴火警戒レベルが導入されたことを受け、有事に備えた避難体制の啓発や火山噴火のメカニズム等を周知することで、奥飛騨温泉郷の地域住民の安全と安心を確保する。		
概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> 避難誘導看板の設置 避難体制等のリーフレット作成 講演会の開催 		
	前回の評価からの改善・改革のポイント			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	①	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
		奥飛騨温泉郷町内会火山噴火避難訓練参加率	%	目標値					105
算出根拠等		対象地域住民の参加者数/前年度の参加者数 × 100		実績値				-	
		達成率(%)						-	
成果指標	②	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
				目標値					
		実績値							
		達成率(%)							
成果指標	①	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
		奥飛騨温泉郷町内会火山噴火避難調整会議出席率	%	目標値				100	
算出根拠等		連合町内会の執行部及び奥飛騨地域町内会長		実績値				-	
		達成率(%)						-	
コスト面	①	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
				目標値					
		実績値							
		達成率(%)							
コスト面	①	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
		受益者1件当たり (円)	(A/B)					769	
		受益者	奥飛騨温泉郷地域住民 (B)					1,498	
		算出根拠等							
コスト面	①	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額			
		歳出(千円)	(A)				1,152		
		受益者負担(使用料・負担金等)					0		
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					0		
		一般財源					1,152		
コスト面	①	指標名	H21	H22	H23見込	H24計画			
		受益者1件当たり(円)	(A/B)				769		
		受益者	奥飛騨温泉郷地域住民 (B)				1,498		
		算出根拠等							

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A (2) 結びつく	A	火山災害防止に努めます。(7次総目標)
	B (1) 一部結びつく		
	C (0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A (2) 非常に多い、急増している	A	奥飛騨温泉郷地域の住民の防災意識は高く、事業を実施することにより、より高い防災体制の構築が図られる。
	B (1) ある程度のニーズがある		
	C (0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A (2) 市民全体におよぶ	A	火山噴火の想定区域である奥飛騨温泉郷地域の全域を対象に実施するため、事業効果は極めて高い。
	B (1) 概ね市民全体におよぶ		
	C (0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A (2) 十分に達成している (100%以上)	評価対象外	「H24新規事業」のため
	B (1) 概ね達成している (75%以上)		
	C (0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A (2) 有効である	評価対象外	「H24新規事業」のため
	B (1) 概ね有効である		
	C (0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A (2) 課題はない・解消されている	評価対象外	「H24新規事業」のため
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A (2) 課題はない・解消されている	評価対象外	「H24新規事業」のため
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A (2) 適正である	評価対象外	「H24新規事業」のため
	B (1) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A (4) 適正である	評価対象外	「H24新規事業」のため
	B (2) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
合計	6.0 / 6.0	100点換算	100 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	地域住民の焼岳噴火警戒意識の向上を図る上でも、啓発関連事業の継続が必要。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	0	1,152	1,152	1,090	1,090
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	0	1,152	1,152	1,090	1,090

予算要求の概要	避難体制の強化を図るための看板設置委託料、印刷製本費 火山の専門家の講演会開催にかかる経費
要求額増減理由	新規事業のため
①支所	地域住民に対する防災の意識付けは反復が基本であるため、ソフト面での啓発活動の継続が課題である。
②本庁所管課(危機管理室)	<ul style="list-style-type: none"> 災害発生に備えた避難方法の周知と防災意識の向上 本事業終了後の対応
地域政策課	
災害対策経費について、一般予算と地域振興特別予算での対応を整理しておく必要がある。	

財務部査定 の考え方	積算内容を精査
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	20999	上宝・奥飛騨温泉郷地域再発見事業	担当課	上宝支所 地域振興課	内線	3923
予算	会計	1 一般会計	特別予算の位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2 総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1 総務管理費		O	C 終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	9 企画費		D	その他事業	
市長の約束	1	積極的な観光振興策を実施します ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上宝町・奥飛騨温泉郷地域の市民	受益者数	3,474 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	交流人口拡大を促進し、賑わいと活力ある地域振興を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	提携大学と共に、上宝町・奥飛騨温泉郷の地域資源を特集したガイドブックを作成し、大学の助言を得て上記意図を達成するにふさわしい方法で、当地域への来訪を検討している人に配布する。		
	前回の評価からの改善・改革のポイント			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
	① 地域資源コンテンツリストアップ数			個	目標値	0	108	40	
			実績値	0	108	29			
算出根拠等				達成率(%)		100	73		
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
	② 大学との編集校正会議の開催回数			回	目標値			3	3
			実績値						
算出根拠等				達成率(%)					
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
	① 大学現地調査回数			回	目標値	-	4	3	
			実績値	-	5				
算出根拠等	実地調査・現地アンケート実施回数		達成率(%)	#VALUE!	125				
コスト面	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
	② ガイドブック作成数			冊	目標値				5,000
			実績値				-		
算出根拠等				達成率(%)				-	
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)				H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額	
	歳出(千円)				(A)	0	610	1,000	1,000
	受益者負担(使用料・負担金等)					0	0	0	0
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)					0	0	0	0
コスト面	一般財源					0	610	1,000	1,000
	指標名			H21	H22	H23見込	H24計画		
	① 受益者1件当たり(円)	(A/B)			173	288	294		
		受益者	上宝町・奥飛騨温泉郷地域の市民(4/1現在)	(B)	3,608	3,529	3,474	3,400	
② ガイドブック1冊あたり(円)						522			
算出根拠等	累積事業費/作成冊数								

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	地域資源を新たな観光資源として活用することは市長公約に位置付けられており、当該事業は公約達成に必要性が高いと判断できる。
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	支所地域内における交流人口拡大及び地域振興に関するニーズは非常に多く、それらニーズに応える手段として地域資源の再発見に関するガイドブック作成に対してもある程度のニーズがあると推定される。
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	交流人口拡大及び地域振興により、概ね市民全体に経済の波及効果が及ぶと考えられる。
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	A	ガイドブック作成に必要な地域資源素材の提供数及び調査回数・内容とも十分目標値を達成している。
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	当該ガイドブック配布による交流人口拡大促進及び地域振興については、提携大学教授の指導の下、当該手法及び活動内容を実施しているため、概ね有効と判断できる。
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	ガイドブックに掲載するコンテンツの選択基準について、提携大学の学生の感性を尊重しつつも、行政として一部の民間事業者のPRIに偏重しないように協議を重ねている。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	A	企画・編集業務については提携大学の学生を活用するため、大幅なコスト削減となっている。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	交流人口増加及び地域振興を図るという事業の性格から判断して、受益者1人当たりのコストは概ね適正である。
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	成果はH24年度以降に表れるが、提携大学への編集業務委託などにより大幅なコスト削減を実施しており、投資コストに見合った成果があるものと判断できる。
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		13.0 / 20.0	100点換算	65 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・行政の刊行物として一部の民間事業所PRの偏重とならないように提携大学と共に精査し、ガイドブック原稿の校正を重ね、精度を高めたうえでガイドブックの印刷製本、及び効果的な配布方法と配布先を検討し実施する。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・成果の有効活用について検討する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	1,000	1,000	0	1,000	1,000
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	1,000	1,000	0	1,000	1,000

予算要求の概要	上宝・奥飛騨温泉郷地内の地域資源を特集したガイドブックの作成
要求額増減理由	
①支所	・当該ガイドブックの配布によって得られた効果を具体的に数値化することは非常に困難であるため、限られた冊数で実効性のある配布・PR方法、及び市民に理解を得るための当該事業の効果検証方法を提携大学と協同して検討を重ねる必要がある。
②本庁所管課(地域政策課)	事業最終年度のため成果を検証したうえで、次年度以降も成果が生かされるためのしくみづくりが必要である。
地域政策課	

財務部査定の考え方	要求どおり
市長査定の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	51399	上宝・奥飛騨温泉郷地域間連携促進事業	担当課	上宝支所 基盤産業課	内線	3931
予算	会計	1 一般会計	特別予算の位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	5 農林水産業費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1 農業費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	3 農業振興費		D	その他事業	
市長の約束	3	産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します ・農業を、豊かで広大な自然環境の恵みを活かして、技術と経営の一体的な確立を図り次代につながる産業に育てるため、人材育成、農工商連携による第6次産業化などの施策を、農業従事者の声を聞きながら積極的に、かつ総合的に実施します。 ・生産物の消費拡大を図るため、地産地消の拡大や直売所などの活用による販路の拡大と流通の効率化に取り組みます。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上宝支所地域の住民	受益者数	3,474 人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	・上宝町及び奥飛騨温泉郷の両地域が連携し、物・サービスの地産地消を推進することにより、支所管内全体の産業活性化を図る		
概要	事業の実施手法(手段)	・地域が主体となって取り組む地産地消の推進事業に対する助成		
概要	前回の評価からの改善・改革のポイント			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	①	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		PRイベント等開催回数	回	目標値			4	5
算出根拠等			実績値		5		-	
算出根拠等			達成率(%)		125		-	
成果指標	②	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		山椒の出荷量対前年比	%	目標値				
算出根拠等			実績値		85	115	-	
算出根拠等			達成率(%)		85	104	-	
コスト面	①	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		受益者1件当たり(円)	(A/B)			567	576	578
算出根拠等			実績値		3,529	3,474	3,460	
算出根拠等			達成率(%)				-	
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)				H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額
	歳出(千円)				(A)	2,000	2,000	2,000
	受益者負担(使用料・負担金等)							
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
コスト面	一般財源				2,000	2,000	2,000	
	指標名				H21	H22	H23見込	H24計画
	受益者1件当たり(円)				(A/B)	567	576	578
	受益者 上宝支所地域の住民				(B)	3,529	3,474	3,460
算出根拠等			達成率(%)				-	

3 分析・評価(Check)

必要性	①	評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など	
		事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2) 結びつく B(1) 一部結びつく C(0) 結びつかない	A	・当事業は地域の特産物を農工商連携で消費拡大に繋げるための取り組みであるため、大きく結びつく	
必要性	②	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2) 非常に多い、急増している B(1) ある程度のニーズがある C(0) 少ない、減少している	B	・安心安全な「本物」の農産物のニーズは、市民に限らず広く存在する	
		③	事業効果が市民全体に及ぶか	A(2) 市民全体におよぶ B(1) 概ね市民全体におよぶ C(0) わずかな受益者に限定される	B	・特産物の「地消」が目的であるため、市民に広く行き渡るにより認知度がアップし、消費する側、生産する側双方にメリットがある
			④	事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2) 十分に達成している (100%以上) B(1) 概ね達成している (75%以上) C(0) あまり順調でない (75%未満)	B
成果面	⑤	成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性		A(2) 有効である B(1) 概ね有効である C(0) 見直しが必要である	B	・地産地消の「地消」を産地の範囲として捉えると需要が少なく消費の拡大に繋がらないため、地域全体での消費を「地消」とし、消費拡大に向けた取り組みを実施している
		⑥		事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2) 課題はない・解消されている B(1) 改善・工夫に取り組んでいる C(0) 対応していない	B
			コスト面	⑦	コスト削減に向けた改善・工夫	A(2) 課題はない・解消されている B(1) 改善・工夫に取り組んでいる C(0) 対応していない
⑧	受益者1件当たりのコスト	A(2) 適正である B(1) 概ね適正である C(0) 改善が必要である			B	・地域住民を受益者としているが、物流の過程でも経済効果が見込めるため、実質的なコストはさらに低い
	成果対コスト	⑨			成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4) 適正である B(2) 概ね適正である C(0) 改善が必要である
合計			11.0 / 20.0	100点換算	55 / 100	

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・次年度で終期を迎える事業であるため、事業終了後も持続可能な取り組みとなるよう今後を見据えた事業展開を行う				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・平成24年度までの事業であり、事業効果を検証し、地域による創意工夫をもった運営を行う必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	2,000	2,000	0	2,000	2,000
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	2,000	2,000	0	2,000	2,000

予算要求の概要	地域団体が取り組む地産地消事業に対する助成
要求額増減理由	
①支所	価格競争が存在する消費側への事業の啓蒙と理解消費促進のための生産物のプレミアム化
②本庁所管課(農務課)	
事業実施の課題	「飛騨山椒」を核とした「地産地消」活動が活発化してきている。今後も継続する必要がある。
地域政策課	
事業効果の詳細な分析と今後の取り組みへの反映が必要である。	

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	62399	奥飛騨双六溪谷テント村 施設解体事業	担当課	上宝支所 基盤産業課	内線	3931
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6 商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2 観光費		○ C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	2 観光施設費		D	その他事業	
市長の約束						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上宝支所地域の住民	受益者数	3,474 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・当該施設は借地にあるため、営業をとりやめた施設を解体し、土地を事業実施前の状態に戻して地権者に返却する		
概要	事業の実施手法(手段)	・施設の解体、樹木の伐採を請負にて実施		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	①	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		算出根拠等			目標値 実績値			
		算出根拠等		達成率(%)				-
成果面	②	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		算出根拠等		目標値 実績値				-
		算出根拠等		達成率(%)				-
成果指標	①	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		算出根拠等		目標値 実績値				-
		算出根拠等		達成率(%)				-
コスト面	②	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		算出根拠等		目標値 実績値				-
		算出根拠等		達成率(%)				-
コスト内訳	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)				H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額
	歳出(千円)				(A)			8,108
	受益者負担(使用料・負担金等)							
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
コスト指標	一般財源							8,108
	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
	① 受益者1件当たり(円)	(A/B)					2,343	
	② 受益者	上宝支所地域の住民 (B)					3,460	
		算出根拠等						

3 分析・評価(Check)

必要性	①	事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	評価基準	評価	評価内容の説明など		
		A(2) 結びつく	B(1) 一部結びつく	C(0) 結びつかない	B	不要となった施設の解体作業であるため直接的には結びつかないが、行財政改革の一環として実施する	
成果面	②	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2) 非常に多い、急増している	B(1) ある程度のニーズがある	C(0) 少ない、減少している	B	不要となった施設の解体作業であるため市民のニーズには結びつかないが、行財政改革の一環として実施する
		③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2) 市民全体におよぶ	B(1) 概ね市民全体におよぶ	C(0) わずかな受益者に限定される	A	不要となった施設の解体作業であるため、翌年度以降の管理経費削減となる
			④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2) 十分に達成している (100%以上)	B(1) 概ね達成している (75%以上)	C(0) あまり順調でない (75%未満)	評価対象外
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2) 有効である	B(1) 概ね有効である		C(0) 見直しが必要である	評価対象外	平成24年度新規事業	
	⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2) 課題はない・解消されている		B(1) 改善・工夫に取り組んでいる	C(0) 対応していない	評価対象外	平成24年度新規事業
		⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2) 課題はない・解消されている	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる	C(0) 対応していない	評価対象外	平成24年度新規事業
⑧ 受益者1件当たりのコスト			A(2) 適正である	B(1) 概ね適正である	C(0) 改善が必要である	評価対象外	平成24年度新規事業
	⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か		A(4) 適正である	B(2) 概ね適正である	C(0) 改善が必要である	評価対象外	平成24年度新規事業
		合計		4.0 / 6.0	100点換算	67 / 100	

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了

総合評価(二次評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	0	7,600	7,600	7,600	7,600
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	0	7,600	7,600	7,600	7,600

予算要求の概要	施設解体工事費
要求額増減理由	新規事業のため
①支所	
②本庁所管課(観光課)	
地域政策課	

財務部査定の考え方	要求どおり
市長査定の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	62499	北アルプス飛騨側登山道整備事業	担当課	上宝支所 基盤産業課	内線	3931
予算	会計	1 一般会計	特別予算の位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6 商工費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2 観光費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	3 自然公園費		D	その他事業	
市長の約束	1	積極的な観光振興策を実施します。 ・飛騨高山の自然環境を利用したグリーンツーリズムに加え温泉や高山で作られた高品質の食材を使ったヘルスツーリズム、自分だけの製品をつくるクラフトツーリズムなど、地元の産業と一体となった新たな旅行スタイルを生みだします。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上宝支所地域の住民	受益者数	3,474 人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	・登山道整備による北アルプス登山者の安心・安全確保及び周辺整備		
概要	事業の実施手法(手段)	・北アルプス飛騨側登山道等維持連絡協議会が実施する軽微な修繕では対処できない木道の修繕等、比較的大規模な登山道の修繕を請負にて実施する		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
				① 協議会との打合せ	回	目標値	2	2
算出根拠等			実績値	2	2		-	
算出根拠等			達成率(%)	100	100		-	
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
				① 登山者の対前年比割合	円	目標値	110	110
算出根拠等			実績値	107	112		-	
算出根拠等			達成率(%)	97	102		-	
コスト面	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
				① 登山者の対前年比割合	円	目標値		
算出根拠等			実績値				-	
算出根拠等			達成率(%)				-	
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額	
	歳出(千円)			(A)	2,000	2,000	2,000	2,000
	受益者負担(使用料・負担金等)							
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
コスト面	一般財源			2,000	2,000	2,000	2,000	
	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
				① 受益者1件当たり(円)	(A/B)	554	567	576
	② 受益者	上宝支所地域の住民 (B)	3,608	3,529	3,474	3,460		
算出根拠等								

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A (2) 結びつく	A	・登山のメッカ北アルプスへの飛騨側登山道として重要な路線であることから、登山者の安心・安全の確保を図ることにより高山市全体のイメージアップと登山客の増加に繋がる
	B (1) 一部結びつく		
	C (0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A (2) 非常に多い、急増している	B	・近年の中高年齢層を中心とする登山ブームにより、登山道の安全確保は重要な課題となっている
	B (1) ある程度のニーズがある		
	C (0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A (2) 市民全体におよぶ	B	・登山レベルがまちまちな不特定多数の登山者が利用する道であるため、安心安全の確保とともにイメージアップの効果は市民全体に及ぶ
	B (1) 概ね市民全体におよぶ		
	C (0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A (2) 十分に達成している (100%以上)	B	・東日本大震災の影響により、奥飛騨温泉郷全体の入込客数が減少しているが、節電のための避暑地への誘客キャンペーン等により減少幅が最小限にとどめられている
	B (1) 概ね達成している (75%以上)		
	C (0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A (2) 有効である	A	・長野県側の登山道の大部分を所管する松本市山岳観光課より高山市の登山道整備手法について照会があったことから、現在の実施方法は有効であると判断している
	B (1) 概ね有効である		
	C (0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A (2) 課題はない・解消されている	A	・北ア連対協や観光協会へ登山道に関する苦情等は入っていないため、整備の効果は上がっている
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A (2) 課題はない・解消されている	B	・資材運搬をヘリコプターに頼らざるを得ないことや、修繕箇所へ日帰りできないなど、コスト削減が困難な事業ではあるが、工期を短縮する資材や工法の取り入れを検討することによりコスト削減に取り組んでいる
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A (2) 適正である	B	・登山道を整備することによる直接の受益者は登山者であるが、最終的には地域へ利益が還元されるため、地区住民が受益者としている
	B (1) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A (4) 適正である	B	・登山者の安全確保、労力軽減等目に見えないものを考慮すると、おおむね適正である
	B (2) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
合計	13.0 / 20.0	100点換算	65 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	・北アルプス飛騨側登山道等維持連絡協議会と連絡を取りながら現状どおり事業を実施する				

総合評価(二次評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	(担当課評価に同じ)				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	2,000	2,000	0	2,000	2,000
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	2,000	2,000	0	2,000	2,000

予算要求の概要	市が管理する登山道の修繕経費
要求額増減理由	
①支所	管理区分が不明確な登山道の維持管理
②本庁所管課(地域政策課)	地域振興特別予算措置期間終了後を見据えた方針の策定が必要である。
地域政策課	

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	72399	地域交通対策事業	担当課	上宝支所 基盤産業課	内線
	72399				3941
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	7 土木費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	2 道路橋梁費		○ C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	3 道路新設改良費		D	その他事業
市長の約束	6 57	市民の生活と生命・財産を守ります。 支所地域と市街地を結ぶ主要道路の整備や都市計画道路の整備を進めます。			

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上宝町住民及び市街地への通勤者	受益者数	500 戸
	どういう状態にしたいのか(意図)	地域からの要望も多く、合併後も通行量が増大している上宝町と高山市街地を最短で結ぶ市道上宝丹生川線の視距改良、法面改良及び待避所を設置し、安全に通行できるよう整備する。		
概要	事業の実施手法(手段)	視距改良(カーブ改良) 6箇所 L=180m 法面改良 6箇所 L=120m 待避所設置 4箇所		
	前回の評価からの改善・改革のポイント			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
①	視距改良・法面改良・待避所設置	箇所	目標値	1	1	1	1
			実績値	1	1	1	1
算出根拠等			達成率(%)	100	100	100	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
②			目標値				
			実績値				
算出根拠等			達成率(%)				
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
①	交通事故発生件数	件	目標値	0	0	0	
			実績値	0	0	0	-
算出根拠等			達成率(%)				
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
②			目標値				
			実績値				
算出根拠等			達成率(%)				
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額
	歳出(千円)(A)			1,575	1,754	2,000	2,000
	受益者負担(使用料・負担金等)			0	0	0	0
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			0	0	0	0
コスト面	一般財源			1,575	1,754	2,000	2,000
	指標名			H21	H22	H23見込	H24計画
	①	受益者1件当たり(円)(A/B)	3,150	3,508	4,000	4,000	
			受益者 上宝町住民及び市街地への通勤者 (B)	500	500	500	500
算出根拠等							

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	公共交通網の整備
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	高山市内への最短ルートとして利用が多い
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	C	上宝町の利用が多いが、災害時等緊急時の迂回路として利用が可能である。
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	B	安全に通行が可能である。
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	全線改良が困難なため、局部改良が有効的な手段
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	前年度の評価なし
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	改良箇所の優先順位を付け効率的に実施している
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	妥当である
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	局部改良であるため、工事費を抑制できる。
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		10.0 / 20.0	100点換算 → 50 / 100	

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	現状を把握しながら、安全に通行できるよう、限られた予算で改良を実施する。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・計画的に実施する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	2,000	2,000	0	2,000	2,000
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	2,000	2,000	0	2,000	2,000

予算要求の概要	市道上宝丹生川線の局部改良
要求額増減理由	

①支所	高山市中心部と上宝地区を結ぶ最短距離の路線であり継続して実施する
②本庁所管課(建設課)	上宝・丹生川地域間を結ぶ生活道路として利用されている路線であるが、カーブが連続し狭隘な道路であるため、継続した予算確保が必要である。
地域政策課	
	地域振興特別予算措置期間に完了することが必要である。

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	21899	奥飛騨温泉郷自然環境活用事業	担当課	上宝支所 地域振興課	内線	3923
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2 総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1 総務管理費		O	C 終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	18 環境政策費		D	その他事業	
市長の約束	1	積極的な観光振興策を実施します ・飛騨高山の自然環境を利用したグリーンツーリズム(自然に親しむ旅行)に加え温泉や高山で作られた高品質の食材を使ったヘルスツーリズム(健康に良い旅行)、自分だけの製品をつくるクラフトツーリズム(モノづくり旅行)など、地元の産業と一体となった旅行スタイルを生みだします。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上宝町・奥飛騨温泉郷地域の市民及び体験事業参加者	受益者数	4,974 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	奥飛騨温泉郷地域の雄大な自然環境を活かしたグリーンツーリズム、エコツーリズム、ヘルスツーリズムを推進し、観光振興促進により地域振興を図る		
概要	事業の実施手法(手段)	当該事業の目的に沿った体験型事業実施者に対し、その事業にかかる経費の一部を補助する。		
	前回の評価からの改善・改革のポイント			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
①	体験型事業開催延べ日数	人	目標値	0	0	262	300
			実績値	0	0	262	
算出根拠等	体験イベント募集人数		達成率(%)			100	
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
②			目標値				
			実績値				-
算出根拠等			達成率(%)			-	
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
①	体験型事業参加者応募者人数	人	目標値	-	-	1,500	2,200
			実績値	-	-		
算出根拠等	体験イベント募集に応募した人数		達成率(%)	#VALUE!	#VALUE!		
コスト面	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
②			目標値				
			実績値				-
算出根拠等			達成率(%)			-	
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額
	歳出(千円)(A)			0	0	2,500	2,500
	受益者負担(使用料・負担金等)			0	0	0	0
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			0	0	0	0
コスト面	一般財源			0	0	2,500	2,500
	指標名			H21	H22	H23見込	H24計画
	①	受益者1件当たり(円)(A/B)				503	503
		受益者	上宝町・奥飛騨温泉郷地域の市民(4/1現在)及び体験事業参加者(B)			4,974	4,974
②	体験メニューあたりの交付額(千円)		-	-	209	209	
算出根拠等	補助金交付額/体験型事業のメニュー数(12メニュー)						

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A (2) 結びつく	A	自然環境を活かした新たな旅行スタイルを推進することは市長公約に位置付けられており、当該事業はグリーンツーリズムやエコツーリズム実施者への補助を通じてそれら事業の推進を図るものであるため公約達成に必要性が高いと判断できる。
	B (1) 一部結びつく		
	C (0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A (2) 非常に多い、急増している	B	支所地域内における交流人口拡大及び地域振興に関するニーズは非常に多く、それらニーズに応える手段として当該補助対象事業を補助することで事業推進を図ることはある程度ニーズがあるものと考えられる。
	B (1) ある程度のニーズがある		
	C (0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A (2) 市民全体におよぶ	C	受益者は全高山市民の一部(約3.7%)及び体験型事業参加者に限られる
	B (1) 概ね市民全体におよぶ		
	C (0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A (2) 十分に達成している (100%以上)	評価対象外	H23年度新規事業のため。
	B (1) 概ね達成している (75%以上)		
	C (0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A (2) 有効である	A	補助金交付は、体験型事業参加者が支払う参加料を低廉にすることができ、より多くの参加を促すことに直結することから、有効であると判断できる。
	B (1) 概ね有効である		
	C (0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A (2) 課題はない・解消されている	C	H23年度新規事業のため、前年度の課題や指摘事項には対応していない。
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A (2) 課題はない・解消されている	A	補助金交付にあたり、体験型事業の内容及び同事業実施者の資金計画の精査を重ねたうえで必要最低限の補助金を交付している。
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A (2) 適正である	A	交流人口増加及び地域振興を図るという事業の性格から判断して、受益者1人あたりのコストは概ね適正である。
	B (1) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A (4) 適正である	A	成果はH23年度後半に表れるが、補助金交付にあたって必要最小限にとどめており、投資コストに見合った成果があるものと判断できる。
	B (2) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
合計		13.0 / 18.0	100点換算 → 72 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・事業効果を検証したうえで、グリーンツーリズム・エコツーリズム・ヘルスツーリズム及びそれらが観光振興の促進に資する事業であるかを見極めながら、事業を継続する。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・事業の成果を地域振興に活かすことが必要 ・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	2,500	2,500	0	2,500	2,500
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	2,500	2,500	0	2,500	2,500

予算要求の概要	上宝・奥飛騨温泉郷地域の自然環境を活かした体験型事業に対する助成
要求額増減理由	
①支所	補助金交付による地域振興への効果を具体的な数値で示すことが極めて困難である。補助対象経費となる具体的に明確な基準や指針を示す必要がある。
②本庁所管課(地域政策課)	補助期間終了後、自立して事業が実施できるような方向付けが必要である。
地域政策課	

財務部査定の考え方	要求どおり
市長査定の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	21899	上宝・奥飛騨堆肥センター 生ごみ処理推進事業	担当課	上宝支所 地域振興課	内線	3914
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2 総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1 総務管理費		O	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	18 環境政策費		D	その他事業	
市長の約束	8	豊かな自然環境を守り、環境モデル都市をつくります。 ・地球温暖化の対策、生物多様性の保全活用など、環境保全は今を生きている全ての人々が取り組まなければならない重要な問題であるため、バイオマスの利活用や間伐材・林地残材製品の開発など、環境改善につながる取り組みを支援します。 ・温室効果ガス排出量を2020年までに25%削減(1990年対比)します。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上宝町・奥飛騨温泉郷市民	受益者数	3,474 人
目的	どういった状態にしたいのか(意図)	上宝・奥飛騨バイオマス利用促進協議会の事業実施により、上宝町地区及び奥飛騨温泉郷地区の地域連携の要となっている(有)奥飛騨エコセンターの生ごみ受け入れと堆肥生産の効率化・生産コストの削減を図る。また、原料供給者及び堆肥消費者の双方に対し広く広報活動を行い、(有)奥飛騨エコセンターの堆肥生産活動を活性化させ、循環型社会の形成を目指す。		
概要	事業の実施手法(手段)	上宝・奥飛騨バイオマス利用促進協議会が行う事業(①地域啓発事業②家庭ごみ処理試験事業③堆肥施用実証試験事業④生ごみ処理省力化事業⑤畜糞搬入助成事業)に対し、3年間を期限とする補助を行う。		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
① 広報誌発行	算出根拠等	年4回発行	目標値			4	4
			実績値				
②	算出根拠等	達成率(%)	目標値				
			実績値				
① 生ごみ処理量	算出根拠等	堆肥原料となる生ゴミの確保量	目標値			130	140
			実績値		127		
②	算出根拠等	達成率(%)	目標値				
			実績値				

コスト面	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
① 受益者1件当たり (円)	算出根拠等	(A/B)	目標値			720	720
			実績値				
② 受益者	算出根拠等	上宝町・奥飛騨温泉郷の市民 (B)	目標値			3,474	3,474
			実績値				

コスト内訳	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	H21	H22	H23	H24
		決算額	決算見込額	予算額	実施計画額
歳出(千円)	(A)			2,500	2,500
	受益者負担(使用料・負担金等)				
一般財源	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				
	2,500			2,500	

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A (2) 結びつく	A	バイオマスの利活用と地球温暖化の対策は市長の約束の1つであり、エコセンターが行っている生ごみ・畜糞等の堆肥化が循環型社会の形成に資すると共に、生ごみの運搬・焼却に必要なエネルギーの削減(CO2削減)にもつながる。
	B (1) 一部結びつく		
	C (0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A (2) 非常に多い、急増している	B	生ごみの処理については一般家庭・事業者共に苦勞しており、収集・運搬・処理事業に対してのニーズはある。また、高品質の農産物の生産には良質な堆肥が必要であり、消費者からの高い要求に応えるべく、良質な堆肥の需要は増えている。
	B (1) ある程度のニーズがある		
	C (0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A (2) 市民全体におよぶ	B	生ごみの搬入等については距離的な問題があり、全市への展開は限定的であるが、堆肥販売については全市に対し事業効果が及ぶと思われる。
	B (1) 概ね市民全体におよぶ		
	C (0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A (2) 十分に達成している (100%以上)	B	今後の事業経過により判断。
	B (1) 概ね達成している (75%以上)		
	C (0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A (2) 有効である	A	広報活動を行うことにより、循環型社会への理解と協力を得られること、また生ごみ処理の省力化により堆肥生産コストの削減ができ、ひいては(有)奥飛騨エコセンターの経営安定化につながる。
	B (1) 概ね有効である		
	C (0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A (2) 課題はない・解消されている	B	今後の事業経過により判断。
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A (2) 課題はない・解消されている	B	堆肥生産の効率化のための事業として、生ごみ省力化事業を実施している。
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A (2) 適正である	B	良質な堆肥を安定的に生産し、循環型社会の形成に資していることと、上宝支所管内の地域連携の要となっている施設の継続のために必要なコストであると思われる。
	B (1) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A (4) 適正である	B	本年度の事業実施により、堆肥生産事業のコストの圧縮がなされ、経営効率化につながると期待される。
	B (2) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
合計	12.0 / 20.0	100点換算	60 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	①地域啓発事業②家庭ごみ処理試験事業③堆肥施用実証試験事業④生ごみ処理省力化事業⑤畜糞搬入助成事の実施状況と効果について個別に評価・検討を行う。 特に、堆肥生産の効率化について評価・検証を行い、次年度の事業内容の検討を行う。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・経営改善が図られるよう事業実施の効果検証とフォローアップを行う必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	2,500	2,500	0	2,500	2,500
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	2,500	2,500	0	2,500	2,500

予算要求の概要	循環型社会の形成に向けた取り組みに対する助成
要求額増減理由	
①支所	上宝・奥飛騨バイオマス利用促進協議会が実施した事業により、(有)奥飛騨エコセンターの生ごみ処理と堆肥生産・販売の効率化と低コスト化がどれだけ達成されたかを検証していくことが必要である。
②本庁所管課(地域政策課)	
補助期間終了後、自立して事業が実施できるような方向付けが必要である。	
地域政策課	

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	54199	高原本地改良区水路管理助成事業	担当課	上宝支所 基盤産業課	内線	3931
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	5 農林水産業費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4 農業土木費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1 農業土木総務費		O	D その他事業	
市長の約束	3	産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します ・農業生産額250億円を目指します				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上宝地域の住民	受益者数	1,289 人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	・受益面積約185haの高原用水の維持管理費を助成することにより、農業用水路の適正利用と農業生産性の向上を図る		
概要	事業の実施手法(手段)	・高原本地改良区が行う高原用水の維持管理事業に対する助成		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	①	見回り・点検回数	回	目標・実績			
				H21	H22	H23見込	H24計画
算出根拠等	延回数	目標値		330	330	330	300
		実績値		331	298		-
算出根拠等	達成率(%)	H21		100	90		-
		H22		100	90		-
成果指標	②	断水回数	回	目標・実績			
				H21	H22	H23見込	H24計画
算出根拠等	自然災害や計画的なものを除く施設の突発事故等による断水回数	目標値		0	0	0	0
		実績値		0	0	0	-
算出根拠等	達成率(%)	H21		100	100	100	-
		H22		100	100	100	-
事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)				H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額
歳出(千円)(A)				700	700	700	700
受益者負担(使用料・負担金等)							
その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
一般財源				700	700	700	700
指標名				H21	H22	H23見込	H24計画
①	受益者1件当たり(円)	(A/B)	527	533	543	551	
			受益者	上宝地域の住民	(B)	1,329	1,314
②	算出根拠等						

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A (2) 結びつく	A	・高原用水は畑作が中心だった上宝地区の農業を水田に変えた重要な施設であり、近年では生産物が高品質で市場でも高い評価を得ていることから、ブランド化や生産額向上に結び付いている
	B (1) 一部結びつく		
	C (0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A (2) 非常に多い、急増している	A	・高原用水の安定的な維持管理が高品質な農産物の生産に欠かせないものとなっている
	B (1) ある程度のニーズがある		
	C (0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A (2) 市民全体におよぶ	A	・直接の受益者は地域住民であるが、生産物の高い評価は飛騨高山のブランド力向上に大きく寄与している
	B (1) 概ね市民全体におよぶ		
	C (0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A (2) 十分に達成している (100%以上)	B	・適正な維持管理の結果、概ね順調といえる
	B (1) 概ね達成している (75%以上)		
	C (0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A (2) 有効である	B	・受益面積が大きいため一度の断水が農作物の生産に大きな影響を与えることとなるが、施設が老朽化しているため、見回り点検回数を増やすなど安定的な用水の供給に努力している
	B (1) 概ね有効である		
	C (0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A (2) 課題はない・解消されている	B	・施設の大規模な改修による延命化等への対応がとれるよう、工夫しながら土地改良区の運営を実施している
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A (2) 課題はない・解消されている	B	・限られた予算内での事業であるため、事業主体はコスト削減に努力している
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A (2) 適正である	B	・地域住民を受益者としているが、流通の過程でも経済効果が見込めるため、実質的なコストはさらに低い
	B (1) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A (4) 適正である	B	・冬期間の融雪用水の供給を考慮すると、おおむね適正である
	B (2) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
合計	13.0 / 20.0		65 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・施設の延命化を図り、持続可能な事業となるよう現状を維持しながら実施する				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・補助金の継続については、他地域とのバランスを考慮したうえで調整する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	700	700	0	700	700
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	700	700	0	700	700

予算要求の概要	高原本地改良区が実施する高原用水維持管理事業に対する助成
要求額増減理由	
①支所	飛騨市が同様に組合に対して行っている補助金の動向
②本庁所管課(農務課)	今後、補助金の助成事業を継続するかどうかについては、他地区とのバランスを考慮したうえで、調整する必要がある。
地域政策課	地域振興特別予算措置期間終了までに、方針を飛騨市とともに定める必要がある。

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	73199	しのぶ砂防ダム管理委託		担当課	上宝支所 基盤産業課		内線	3942
予算	会計	1	一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	7	土木費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	3	河川費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	1	河川維持費		O	D その他事業		
市長の約束	飛騨高山の自然環境を利用した自然に親しむ旅行に加え温泉や高山で作られた高品質の食材を使ったヘルシーツーリズム(健康に良い旅行)、自分だけのクラフトツーリズム(モノづくりの旅行)など、地元産業と一体となった新たな旅行スタイルを生み出します。							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	地元住民(一重ヶ根・村上)・観光客	受益者数	人
	どういう状態にしたいのか(意図)	奥飛騨温泉郷一重ヶ根地内にある「しのぶ砂防ダム」は、だれでも気楽にダムの中に入り見学できる砂防学習施設となっている。その施設見学者(観光客等)へのイメージを落とさないようダムない歩道の照明及び水車等の管理を行う。		
概要	事業の実施手法(手段)	しのぶ砂防ダム内歩道及び水車等の管理業務、付近の清掃等及び照明灯の維持管理		
	前回の評価からの改善・改革のポイント	一般予算へ移行を検討する。		

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画				
				目標値	実績値						
①	しのぶダムの管理業務(電気代含む)	人	目標値	144	144	144					
			実績値	144	144		-				
算出根拠等	48日×3人=144		達成率(%)	100	100		-				
成果面	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画				
				目標値	実績値						
②			目標値								
			実績値				-				
算出根拠等			達成率(%)				-				
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画				
				目標値	実績値						
①			目標値								
			実績値				-				
算出根拠等			達成率(%)				-				
②	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画				
				目標値	実績値						
算出根拠等			目標値								
			実績値				-				
算出根拠等			達成率(%)				-				
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額				
	歳出(千円)(A)			190	180	220	220				
	受益者負担(使用料・負担金等)			0	0	0	0				
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			0	0	0	0				
財源内訳	一般財源					220	220				
	コスト指標	指標名	単位	H21	H22	H23見込	H24計画				
① 受益者1件当たり(円)(A/B)								339	321	393	393
② 受益者 地元住民・観光客 (B)								560	560	560	560
算出根拠等											

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	B	積極的観光振興策、グリーンツーリズムに合致している
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	しのぶ砂防ダムは全国で唯一ダムの中を歩いて通れる砂防ダムで周囲には親水公園を整備しており観光客や地域の住民に親しまれている。また、イベントも多数実施されている。
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	たるまかねおこりライトアップ等のイベントが行われることにより親しまれている。
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	B	観光客や市民に親しまれ親水公園として親しまれている。
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	公園内の草刈り等の維持管理によりきれいな公園となっている。
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	親しまれる施設となるような維持管理に取り組んでいる。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	公園内の草刈り時期の見極めなどにより、効果が得られるように取り組んでいる。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	A	ゆきとどいた維持管理をすることにより、利用者の増大となっている。
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	A	事業費以上の効果が得られている。
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		13.0 / 20.0	100点換算 → 65 / 100	

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	地域の観光資源であり、継続して管理する必要がある。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	(担当課評価に同じ)				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	220	220	0	220	220
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	220	220	0	220	220

予算要求の概要	しのぶ砂防ダム内歩道の維持管理経費
要求額増減理由	
①支所	継続して実施する。
②本庁所管課(維持課)	トンネル内の照明は必要時のみの点灯とするなど節電を心掛けることが必要である施設内の清掃は、地元の協力を得るなどして経費の削減を図ることが必要である
地域政策課	
	地域振興特別予算措置期間終了後を見据えた施設の在り方、方針の策定が必要である。

財務部査定の考え方	要求どおり
市長査定の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	92299	地域小学校教育振興事業費	担当課	上宝支所 地域振興課	内線	3913
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2 小学校費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	2 教育振興費		O	その他事業	
市長の約束						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	本郷小・栃尾小4年生と引率者	受益者数	45 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	氷見市立灘浦小学校と、本郷小学校、栃尾小学校の4年生が海の子山の子交流を行うことにより、社会性を育む課外授業として児童の教育効果の向上に資する。		
概要	事業の実施手法(手段)	氷見市立灘浦小学校へ訪問する経費に対する助成金		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
	① 本郷小・栃尾小4年生と引率者数	人		目標値	34	45	28	29	
実績値		34	45						
算出根拠等	栃尾・本郷小の児童数、引率者数		達成率(%)	100	100		-		
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
	②	%		目標値					
実績値									
算出根拠等	交流事業に参加した3校の児童総数の割合		達成率(%)	98	100		-		
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
	① 交流事業参加率	%		目標値	100	100	100	100	
実績値		98	100						
算出根拠等	交流事業に参加した3校の児童総数の割合		達成率(%)	98	100		-		
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額			
	歳出(千円)		(A) 300	300	400	300			
コスト面	受益者負担(使用料・負担金等)								
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)								
コスト面	一般財源		300	300	400	300			
	指標名		H21	H22	H23見込	H24計画			
①	受益者1件当たり(円)		(A/B) 6,667	6,667	8,889	6,667			
	受益者 本郷小・栃尾小4年生と引率者 (B)		45	45	45	45			
②									
算出根拠等									

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	体験学習、学校間の交流など個性や能力を伸ばす教育を行う(7次総目標)
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	A	児童自らが自分がおかれた環境の中で学び考え行動する力が必要であり、ニーズは高い
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	C	対象とする児童が栃尾小と本郷小の4年生であり事業効果はわずかな受益者に限られる
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	A	県外交流で学んだ貴重な経験が、自らの地域を見つめ直し、改めてふるさとの良さを発見することにもつながり豊かな人間となつてあられる
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	A	児童交流の方法はいろいろあるが、環境がまったく違うもとの交流は、お互いに切磋琢磨でき有効である
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	当支所地域の児童のみの参加であり、市内全小学校との均衡については検討が必要である
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	参加者の負担金はあるものの、受益者が限定されており、削減に向けての改善に取り組む
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	C	他地域の学校との均衡も考慮すると、受益者負担のウエイトを大きくするよう改善が必要である
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	体験学習や学校間の交流など社会性を育む学習として大きな成果を挙げている
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		12.0 / 20.0	100点換算 → 60 / 100	

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	○	縮小	廃止の検討	完了
	当地域の小学校が伝統的に実施し、社会性を育む特色ある学習活動として継続する。					

総合評価(二次評価)	維持・改善	拡大	○	縮小	廃止の検討	完了
	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。					

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	400	300	△100	300	300
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	400	300	△100	300	300

予算要求の概要	氷見市立灘浦小学校との児童交流事業に対する助成
要求額増減理由	児童数の減による
①支所	児童の生きた学習として成果が上がっている。今後どのように支援するか検討が必要である。
②本庁所管課(学校教育課)	H26までで事業終了であるが、郷土愛を培う交流事業として成果が上がっているため、平成27年度以降は学校と地域が連携して自主運営事業として実施する。 ・学年行事をスリム化するためにも、セカンドスクールとの整合を図り自主運営事業として実施する。 等の方針で検討する必要がある
地域政策課	
	特定地域の学校による他都市との交流事業に対する取組方針を定める必要がある。

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	20999	地域振興事業補助金	担当課	上宝支所 地域振興課	内線	3911
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2 総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1 総務管理費		O	C 終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	9 企画費		D	その他事業	
市長の約束	12	新しいまちづくりを実現するために、次のことを市長の基本姿勢とします。 ・合併のメリットを生かしつつ、それぞれの地域の特性を伸ばします。 ・地域の個性あるまちづくりと、地域の一体感を創るため、地域が手を取り合って取組む活動に支援します。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	地域住民	受益者数	3,474 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	地域住民の創意と工夫による魅力ある地域づくりを推進するため、市民自らが主体となって取組む地域振興事業を支援する。		
概要	事業の実施手法(手段)	地域の住民が自主的、主体的に取組む公共性の高い地域づくり事業への補助		
	前回の評価からの改善・改革のポイント			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 補助金交付要望件数			件	目標値	-	-	27
算出根拠等		要望提出件数	達成率(%)	#VALUE!	#VALUE!	#VALUE!	-	
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	②			件	目標値			
算出根拠等		達成率(%)					-	
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 補助金交付件数			件	目標値			20
算出根拠等		申請書提出件数	達成率(%)	#DIV/0!	#DIV/0!		-	
コスト面	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	②			件	目標値			
算出根拠等		達成率(%)					-	
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額		
	歳出(千円)(A)		3,300	3,890	7,500	5,000		
コスト面	受益者負担(使用料・負担金等)							
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
コスト面	一般財源		3,300	3,890	7,500	5,000		
	指標名		H21	H22	H23見込	H24計画		
①	受益者1件当たり(円)(A/B)	915	1,102	2,159	1,471			
	受益者 上宝支所管内住民(B)	3,608	3,529	3,474	3,400			
②								
算出根拠等								

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2) 結びつく	A	地域の個性あるまちづくりと一体感を創る事業として結びついている。
	B(1) 一部結びつく		
	C(0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2) 非常に多い、急増している	A	地域住民が自らの手で地域づくりを進める事業として需要は高い。
	B(1) ある程度のニーズがある		
	C(0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2) 市民全体におよぶ	B	支所地域の全域に渡り事業効果が波及する。
	B(1) 概ね市民全体におよぶ		
	C(0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2) 十分に達成している (100%以上)	A	補助金を活用した地域づくりが進められ、十分に目的が達成されている。
	B(1) 概ね達成している (75%以上)		
	C(0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2) 有効である	B	住民自らが労役提供をするルールにより、地域力の向上が図られ、極めて有効である。
	B(1) 概ね有効である		
	C(0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2) 課題はない・解消されている	B	制度運用の手法について地域によりバラつきがあり、全市域的なルールが統制が必要である。
	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2) 課題はない・解消されている	B	過大設計や補助対象外経費について十分に精査を行い、不要な補助金支出の抑止に努めている。
	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2) 適正である	B	実施事業の内容によりバラつきはあるが、地域としては優先順位の高い事業を実施することから言って、費用対効果と住民の満足度は適正といえる。
	B(1) 概ね適正である		
	C(0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4) 適正である	A	住民の労役提供によりコストが抑えられ、適正である
	B(2) 概ね適正である		
	C(0) 改善が必要である		
合計		15.0 / 20.0	100点換算 → 75 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	地域力の向上と一体感の醸成を促進するために、事業の内容を精査しつつ継続する。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	平成26年度を終期としている事業であり、執行内容を精査し、27年度以降の対応について検討する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	7,500	5,000	△2,500	5,500	5,500
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	7,500	5,000	△2,500	5,500	5,500

予算要求の概要	地域住民が自主的、主体的に取組む公共性の高い地域づくり事業に対する助成
要求額増減理由	

①支所	
②本庁所管課(地域政策課)	
地域政策課	

財務部査定の考え方	要求どおり アンテナショップ運営補助金を追加
-----------	---------------------------

市長査定の考え方	財務部調整どおり
----------	----------

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	20999	地域要望対応事業	担当課	上宝支所 地域振興課	内線
	20999				3911
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	2 総務課		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	1 総務管理費		O C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	9 企画費		D	その他事業
市長の約束	12	新しいまちづくりを実現するために、次のことを市長の基本姿勢とします。 ・合併のメリットを生かしつつ、それぞれの地域の特性を伸ばします。 ・地域の個性あるまちづくりと、地域の一体感を創るため、地域が手を取り合って取組む活動に支援します。			

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	地域住民	受益者数	3,474 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	即応性が求められるで市有施設の修繕に対し、迅速に対応する		
概要	事業の実施手法(手段)	市道、農道、水路等の公共施設の軽微な修繕		
	前回の評価からの改善・改革のポイント			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	算出根拠等	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		① 修繕件数	施設修繕の実施件数	件	目標値 実績値	- 8	- 10	21
		達成率(%)	#VALUE!	#VALUE!	#VALUE!	-	-	
成果面	算出根拠等	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		② 即応性	%	目標値 実績値	 100	 100	100	100
		達成率(%)	#DIV/0!	#DIV/0!	-	-	-	
成果指標	算出根拠等	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		②		目標値 実績値	 	 		-
		達成率(%)	-	-	-	-	-	
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)				H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額
	歳出(千円)(A)				2,615	6,081	8,000	5,219
	受益者負担(使用料・負担金等)							
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
コスト指標	一般財源				2,615	6,081	8,000	5,219
	指標名	単位	H21	H22	H23見込	H24計画		
	① 受益者1件当たり(円)(A/B)		725	1,723	2,303	1,502		
	② 受益者 上宝支所管内住民(B)		3,608	3,529	3,474	3,474		
	算出根拠等							

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	地域の個性あるまちづくりと一体感を創る事業として結びついている。
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	要望に基き即応する事業であることから、一定の要望がある。
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	支所地域の全域に渡り事業効果が波及する。
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	A	対象事業が「軽微な修繕」という制約の中で、市民の要望は最大限に反映しているため、達成している。
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	A	市民ニーズに即応することから有効である。
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	軽微な修繕という制約上、要望に対する対応に限界がある。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	要望内容を十分に精査し、費用対効果を考慮しつつ実施している。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	実施事業の内容によりバラつきはあるが、地域としては優先順位の高い事業を実施することから言って、費用対効果と住民の満足度は適正といえる。
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	A	事業内容を精査し、費用対効果の検討と過大設計抑止に配慮しつつ即時性をもって実施している。
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		15.0 / 20.0	100点換算 → 75 / 100	

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	地域からの要望に即応し、スピード感ある事業実施をPRする必要性からも継続する。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	平成26年度を終期としている事業であり、執行内容を精査し、27年度以降の対応について検討する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	8,000	5,219	△2,781	5,200	5,200
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	8,000	5,219	△2,781	5,200	5,200

予算要求の概要	公共施設等の軽微な修繕経費
要求額増減理由	
①支所	
②本庁所管課(地域政策課)	
事業実施の課題	
地域政策課	

財務部査定 の考え方	きめ細かな地域要望対応を推進(配分額の調整による)
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	43299	土地借上料	担当課	上宝支所 基盤産業課	内線
	43299				3944
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	4 衛生費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	4 繰出金		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	2 簡易水道繰出金		D	その他事業
市長の約束	58	安心安全な上水道を提供するため、施設の整備を加速するとともに、未給水区の解消に努めます。			

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	一重ヶ根・村上	受益者数	165 戸
	どういう状態にしたいのか(意図)	簡易水道施設土地借上料		
概要	事業の実施手法(手段)	栃尾簡易水道取水池A=70㎡ 一重ヶ根簡易水道取水池 A=12㎡ 市の基準単価を上回る土地賃賃借		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
① 施設用地	算出根拠等	土地賃賃借契約による	目標値	82	82	12	12
			実績値	82	82	-	-
			達成率(%)	100	100	-	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
②	算出根拠等		目標値				
			実績値				
			達成率(%)				
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
①	算出根拠等		目標値				
			実績値				
			達成率(%)				
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
②	算出根拠等		目標値				
			実績値				
			達成率(%)				
事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)				H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額
歳出(千円)(A)				119	119	115	17
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)			0	0	0	0
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			0	0	0	0
	一般財源			119	119	115	17
指標名				H21	H22	H23見込	H24計画
コスト面	①	受益者1件当たり(円)(A/B)		344	344	332	103
		受益者 一重ヶ根・村上 (B)		346	346	346	165
算出根拠等							

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など	
	A(2)	B(1)			C(0)
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	B	水道施設の運営を円滑に行い、安定した水を供給している。	
	B(1)	一部結びつく			
	C(0)	結びつかない			
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	A	他の水源がない。	
	B(1)	ある程度のニーズがある			
	C(0)	少ない、減少している			
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	C	一重ヶ根・村上住民に限定される。	
	B(1)	概ね市民全体におよぶ			
	C(0)	わずかな受益者に限定される			
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	評価対象外	最小限度の用地であり、他に移設できない。	
	B(1)	概ね達成している (75%以上)			
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)			
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	評価対象外	最小限度の用地であり、他に移設できない。	
	B(1)	概ね有効である			
	C(0)	見直しが必要である			
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	評価対象外	最小限度の用地であり、他に移設できない。	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	評価対象外	最小限度の用地であり、他に移設できない。	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	評価対象外	最小限度の用地であり、他に移設できない。	
	B(1)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	評価対象外	最小限度の用地であり、他に移設できない。	
	B(2)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
合計		3.0 / 6.0	100点換算		50 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	○	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	敷地の買収等の検討が必要である。					

総合評価(二次評価)	維持・改善	拡大	○	縮小	廃止の検討	完了
	・市の基準に近づくよう単価交渉を継続する必要がある。					

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	115	17	△98	17	17
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	115	17	△98	17	17

予算要求の概要	土地借上料
要求額増減理由	単価の見直しによる
①支所	市の基準に近づくよう単価交渉の継続が必要
②本庁所管課(上水道課)	施設の継続的運営のため、市基準額での土地借上料に近づくよう単価交渉を継続する必要がある。
地域政策課	地域振興特別予算措置期間に基準内の借地料となるよう交渉が必要である。

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり